目　次

第1章　総論 ……1

１　策定の趣旨 ……1
２　計画期間 ……2
３　計画の進捗管理及び推進 ……2
４　健康目標 ……3

◆第２次長岡市歯科保健計画体系図 ……4
◆健康目標に対する指標項目 ……7

第2章　各論【ライフステージにおける取り組み】 ……11

１　出生前（胎児及び妊婦） ……11
２　乳幼児期（０～６歳） ……13
３　学童・思春期（７～１８歳） ……16
４　青年期（１９～３９歳） ……19
５　壮年期（４０～６４歳） ……21
６　高齢期（６５歳～） ……23
７　障害児（者）・要介護者 ……25

◆各ライフステージにおける歯科保健の取り組み ……26

参考資料 ……29

１　ながおかヘルシープラン２１　最終評価アンケート結果
【歯科保健分野】 ……31
２　第１次長岡市歯科保健計画　評価について ……51

第1章　総論

１　策定の趣旨

健康で生きがいのある生活はすべての市民の願いです。超高齢社会を迎え、子どもから高齢者まで生涯にわたる歯と口腔の健康の保持増進は、食物の咀嚼だけでなく、充実した食生活、楽しい会話など、豊かな人生を送るための基礎となります。

国では、平成元年から「生涯にわたり自分の歯を２０本以上保つことにより健全な咀嚼能力を維持し、健やかで楽しい生活を過ごそう」という「８０２０（ハチマル・ニイマル）運動」を推進し、平成１２年には「国民健康づくり運動（健康日本２１）」に「歯の健康」の項目を定め、さらに平成２３年には「歯科口腔保健の推進に関する法律」を定め詳細な施策や推進方法を示しています。

長岡市では、生涯を通じた歯と口腔の健康づくりを目指し、平成１５年３月に「長岡市歯科保健計画」を策定し、行政、関係機関、市民が一体となって歯科保健施策を進めてまいりました。

また、地元歯科医をはじめ関係機関の御理解と御協力をいただきながら、各年齢に応じてフッ素塗布及びフッ化物洗口に取り組むと同時に、小・中学校においてフッ素洗口の集団実施を目指して検討が進められてきました。

その結果、「長岡市歯科保健計画」で設定した目標値「一人平均むし歯数（３歳１本以下、５歳３本以下、１２歳１本以下、１７歳３本以下）」や「定期的に歯科医療機関を受診する人の割合１０％以上」、「毎食後歯磨きをする人の割合２２．２％以上」等を達成することができました。

今後、国の健康づくり計画「健康日本２１（第２次）」、県の第四次歯科保健医療総合計画、また、本市の健康づくり計画「第２次ながおかヘルシープラン２１」「長岡市食育推進計画」との整合性を図りつつ、長岡市の歯科保健対策を一層推進していくため、「第２次長岡市歯科保健計画」を策定いたしました。

［歯科口腔保健の推進に関する基本的事項］

（厚生労働省告示第４３８号）

① 口腔の健康の保持・増進に関する健康格差の縮小
② 歯科疾患の予防
③ 生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上
④ 定期的に歯科検診又は歯科医療を受けることが困難な者に対する歯科口腔保健
⑤ 歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備

↓

［長岡市の目指す方向性］

生活の質（QOL）

- ○ 一生自分の歯で食生活を楽しめる
- ○ 会話を楽しめる
- ○ 快適な口腔状況を保持できる

健康目標

- ○ むし歯をつくらない
- ○ 歯周病を予防する
- ○ 口腔機能を維持する

2 計画期間

本計画は平成２５年度から平成３４年度までの１０年計画とします。

なお、計画の中間年度である平成２９年度を目途に、計画の中間評価と数値目標の見直しを行います。

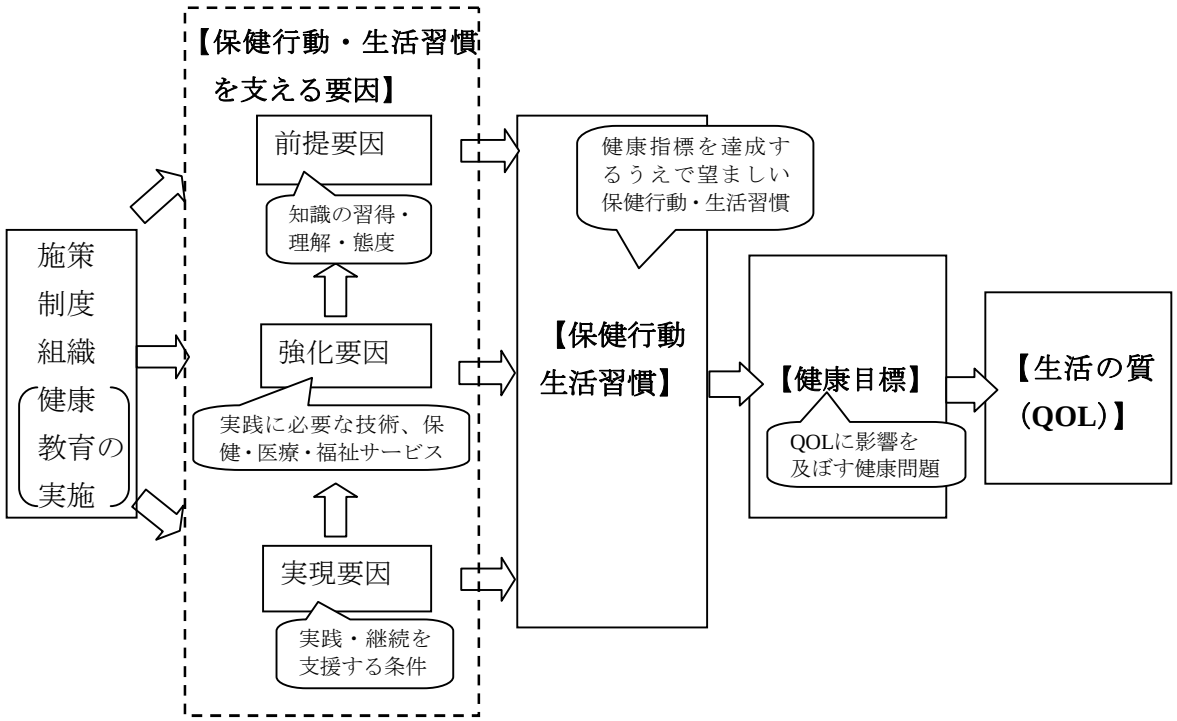
3 計画の進捗管理及び推進

関係機関及び関係課で構成する長岡市歯科保健会議を開催し、歯科保健計画の進捗状況について情報交換及び協議します。また、必要に応じてながおかヘルシープラン２１推進協議会と連携を図りながら計画を推進します。

4 健康目標

本計画はプリシード・プロシードモデルの考え方に基づいています。

［計画の組み立て　概念図］



☆プリシード・プロシードモデル

健康教育や施策等の整備により【保健行動・生活習慣を支える要因】が充実されると、健康目標の達成に望ましい【保健行動・生活習慣】が実践されます。実践されたことで、生活の質（QOL）に影響する健康問題や課題が解決され、【健康目標】の達成につながり【生活の質（QOL）】が向上します。

本計画では、各項目について次のとおり定めました。（次頁参照）

【生活の質】（ QOL ）　一生自分の歯で食生活を楽しめる　会話を楽しめる　快適な口腔状況を保持できる

↑

【健康目標】　むし歯をつくらない　歯周病を予防する　口腔機能を維持する

↑

【保健行動生活習慣】

↑

【保健行動を支える要因】　前提要因　強化要因　実現要因

↑

【保健行動を支える各要因を推進する施策・制度・組織・健康教育の実施】

各段階において、数値目標を定めました。

第2次長岡市歯科

【施策・制度・組織】

ライフステージにおける歯科保健事業

ライフステージ	内容
全年代	情報の収集・市民への情報提供 歯科保健連絡会議の開催
出生前	妊婦歯科健診
乳幼児期 0～6歳	幼児歯科検診（1歳6カ月・2歳・3歳）及び歯科保健指導 フッ素塗布（1歳6カ月児・2歳児・3歳児） 乳児相談時歯科保健相談 子育て支援地区活動（母子保健推進員） 定期的な歯科検診・治療勧奨 保育園でのフッ素洗口 園児への保健指導 園児・保護者への健康教育 保護者への啓発
学童 思春期 7～18歳	定期的な歯科検診・治療勧奨 小・中学校でのフッ素洗口 歯間部の清掃指導 教科等における健康教育 歯科医との連携 保護者への啓発
青年期 19～39歳	健康教育 妊婦歯科健診
壮年期 40～64歳	健康教育 歯周疾患検診（40歳・50歳・60歳）
高齢期 65歳以上	歯周疾患検診（70歳） 虚弱高齢者（二次予防事業）を対象とし、口腔機能向上プログラムを実施 元気な高齢者（一次予防事業）を対象に口腔機能の維持・向上の必要性を普及啓発
障害(児)者 要介護者	在宅要介護者等歯科保健推進事業

【保健行動・生活習慣を支える要因】

前提要因

【歯科疾患の原因・予防法について理解している】

○歯・口腔の機能の重要性について理解している

●フッ素によるむし歯予防を有益と理解している人の割合
43．7% → 60．0%

○歯間部清掃を軸とした口腔清掃の意義を理解している

●喫煙が歯周組織に及ぼす害を知っている人の割合
（学童思春期以降）
62．2% → 75．0%

強化要因

【歯科保健指導を受けたことがある】

●歯みがき指導を受けたことがある人の割合
67．5% → 82．0%

●歯間清掃用具指導を受けたことがある人の割合
（青年期以降）
47．2% → 67．0%

【寝たきり者・障害児（者）への歯科保健サービスと歯科医療】

○在宅要介護者等歯科保健推進事業実施者数
32人

○障害児（者）等歯科保健推進事業実施数
7施設（13施設中）

【高齢者への口腔機能向上】

○二次予防事業における口腔機能向上プログラム実施者数
804人 → 804人以上

実現要因

【歯科検診・保健指導を受けやすい体制がある】

●歯科指導を受けやすい体制がある

・保育園・幼稚園むし歯予防教室実施率
93．7% → 95．0%以上

・むし歯・歯肉炎予防教室の実施率
小学校 100．0% → 100．0%
中学校 70．4% → 90．0%

○保育園・幼稚園・学校・地域・職域と歯科医療機関との連携がとれている

○フッ素利用について情報が得られる

【歯科医師・歯科衛生士による予防処置を受けられる】

○フッ素塗布

○シーラント処置

○定期的な歯石除去等

保健計画体系図

【保健行動・生活習慣】

【歯みがき・歯間部清掃】

●幼児の保護者が仕上げみがきをしている割合
1歳6か月児　90．3%　→　95．0%
3歳児　97．2%　→　98．0%

●毎食後歯みがきをしている人の割合
（学童思春期以降）
65．0%　→　75．0%

●歯間清掃用具を使用している人の割合
（青年期以降）
36．5%　→　40．0%

【歯科医療機関の受診】

●歯科検診後、受診勧奨を受けたら早期に歯科医療機関を受診する

・検診受診者のう蝕の勧奨対象者割合
小学校　4．3%　→　2．0%
中学校　8．9%　→　4．0%

・う蝕の勧奨対象者の受診率
小学校　41．1%　→　50．0%
中学校　33．7%　→　40．0%

・検診受診者の要観察歯の勧奨対象者割合
小学校　7．8%　→　5．0%
中学校　13．4%　→　10．0%

・要観察歯の勧奨対象者の受診率
小学校　51．7%　→　56．0%
中学校　39．4%　→　45．0%

・検診受診者の歯肉炎の勧奨対象者割合
小学校　10．6%　→　7．0%
中学校　18．5%　→　13．0%

・歯肉炎の勧奨対象者の受診率
小学校　50．7%　→　70．0%以上
中学校　41．5%　→　55．0%以上

●妊婦歯科健診受診率
40．6%　→　60．0%

●歯周疾患検診受診率
10．3%　→　10．3%以上

●定期的に歯科医療機関を受診する人の割合
（青壮年期）
25．3%　→　35．0%

【生活習慣】

●歯・口腔の健康に配慮した食生活を行う

・1日2食以上、主食・主菜・副菜がそろう割合
小学5年生　80．9%　→　88．0%
中学2年生　81．1%　→　85．0%
高校2年生　68．8%　→　75．0%
65歳以上　81．7%　→　88．0%

●喫煙しない

・妊婦の喫煙率　3．4%　→　0%
・未成年者の喫煙率　4．4%　→　0%
・喫煙している人の割合
青年期男性　45．8%　→　27．5%
青年期女性　13．9%　→　8．3%
壮年期男性　43．0%　→　25．8%
壮年期女性　9．8%　→　5．9%

●間食が適切である

・おやつの時間を決めている家庭の割合
1歳6か月児　73．5%　→　78．0%
3歳児　80．1%　→　88．0%

【フッ素の利用】

●フッ素を利用する児の割合を高める

・フッ素塗布実施率
1歳6か月児　73．8%　→　75．0%
2歳児　67．2%　→　70．0%
3歳児　64．3%　→　70．0%

・フッ素洗口実施率
幼稚園　21．1%　→　21．1%
保育園　24．4%　→　35．0%
小学校　38．3%　→　83．0%
中学校　11．1%　→　13．0%

【健康目標】

むし歯をつくらない

【一人平均むし歯数】

●3歳　0．87本　→　0．6本以下
●5歳　1．85本　→　1．0本以下
●12歳　0．62本　→　0．5本以下
●17歳　1．53本　→　1．0本以下

【むし歯のない子を増やそう】

●3歳　78．9%　→　90．0%
●5歳　60．8%　→　70．0%
●12歳　72．7%　→　83．0%
●17歳　55．0%　→　60．0%

歯周病を予防する

【歯ぐきから出血している人の割合】

●青年期（19～39歳）
39．5%　→　35．0%以下
●壮年期（40～64歳）
33．9%　→　30．0%以下
●高齢期（65歳以上）
21．6%　→　20．0%以下

【歯周病罹患率】（歯周疾患検診より）
53．3%　→　53．3%以下

【妊婦歯周病罹患率】（妊婦歯科健診より）
47．1%　→　45．0%

口腔機能を維持する

【現在歯20本以上】

●70歳（65～74歳）
62．2%　→　70．0%
●80歳（75～84歳）
35．8%　→　40．0%

【口腔疾患に起因する生活上の困りごとがない人】
（学童思春期以降）
78．9%　→　85．0%

【基本チェックリスト口腔機能該当者割合】
16．4%　→　15．0%以下

【生活の質（QOL）】

○一生自分の歯で食生活を楽しめる

○会話を楽しめる

○快適な口腔状態を保持できる

●は数値目標を定めているもの
例）【一人平均むし歯数】
●3歳　0．87本　→　0．6本以下
（基準値）　（目標値）

○は数値目標を定めていないもの
※各ライフステージの現状値及び目標値は第2章各論参照のこと

健康目標に対する指標項目

【むし歯をつくらない】

	めざすもの	指標項目	H24基準値	目標値	備考
健康目標	【むし歯をつくらない】	【1人平均むし歯数】 #3			
		●3歳	0.87本	0.6本以下	健康にいがた21実行計画 0.8本
		●5歳	1.85本	1.0本以下	健康にいがた21実行計画 2.5本
		●12歳	0.62本	0.5本以下	健康にいがた21実行計画 0.8本
		●17歳（長岡地域振興局管内）	1.53本	1.0本以下	健康にいがた21実行計画 2.0本
		【むし歯のない子を増やそう】			
		●3歳	78.9%	90.0%	健康にいがた21実行計画 80%
		●5歳	60.8%	70.0%	健康にいがた21実行計画 55%
		●12歳	72.7%	83.0%	健康にいがた21実行計画 73%
		●17歳（長岡地域振興局管内）	55.0%	60.0%	健康にいがた21実行計画 50%
保健行動・生活習慣	【歯みがき・歯間部清掃】	●幼児の保護者は仕上げみがきをしている			
		・1歳6か月健診受診者で仕上げみがきをしている家庭 #1	90.3%	95.0%	
		・3歳児健診受診者で仕上げみがきをしている家庭 #1	97.2%	98.0%	
		●毎食後歯みがきをしている人の割合(学童思春期以降) #2	65.0%	75.0%	
		●歯間清掃用具を使用している人の割合（青年期以降） #2	36.5%	40.0%	
	【歯科医療機関の受診】	●歯科検診後、受診勧奨を受けたら早期に歯科医療機関を受診する			
		・検診受診者のう蝕の勧奨対象者の割合			
		小学校対象者割合	4.3%	2.0%	
		中学校対象者割合	8.9%	4.0%	
		・検診受診者の要観察歯の勧奨対象者の割合			
		小学校対象者割合	7.8%	5.0%	
		中学校対象者割合	13.4%	10.0%	
		・う蝕の勧奨対象者の受診率			
		小学校対象者の受診率	41.1%	50.0%	
		中学校対象者の受診率	33.7%	40.0%	
		・要観察歯の勧奨対象者の受診率			
		小学校対象者の受診率	51.7%	56.0%	
		中学校対象者の受診率	39.4%	45.0%	
		●定期的に歯科医療機関を受診する人の割合(青壮年期) #2	25.3%	35.0%	
	【生活習慣】	●間食が適切である			
		・おやつの時間を決めている家庭の割合 #1			
		1歳6か月児	73.5%	78.0%	
		3歳児	80.1%	88.0%	
	【フッ素の利用】	●フッ素を利用する児の割合を高める			
		・フッ素塗布事業			
		1歳6か月児実施率	73.8%	75.0%	
		2歳児実施率	67.2%	70.0%	
		3歳児実施率	64.3%	70.0%	
		・フッ素洗口事業			
		幼稚園実施率 #3	21.1%	21.1%	
		保育園実施率 #3	24.4%	35.0%	
		小学校実施率 #3	38.3%	83.0%	
		中学校実施率 #3	11.1%	13.0%	
前提要因	【歯科疾患の原因・予防法について理解している】	○歯・口腔の機能の重要性について認識している			
		●フッ素によるむし歯予防を有益と理解している人の割合(青年期以降) #2	43.7%	60.0%	
		○歯間部清掃を軸とした口腔清掃の意義			
		●喫煙が歯周組織に及ぼす害を知っている人の割合（学童思春期以降） #2	62.2%	75.0%	
強化要因	【歯科保健指導を受けたことがある人】	●歯みがき指導（青年期以降） #2	67.5%	82.0%	
		●歯間清掃用具指導（青年期以降） #2	47.2%	67.0%	
実現要因	【歯科健診・保健指導を受けやすい体制がある】	●歯科指導を受けやすい体制がある			
		・保育園・幼稚園むし歯予防教室の実施率 #3	93.7%	95.0%以上	
		・小学校むし歯・歯肉炎予防教室実施率 #3	100.0%	100.0%	
		・中学校むし歯・歯肉炎予防教室実施率 #3	70.4%	90.0%	
		○フッ素塗布			
		○シーラント処置			
		○保育園・幼稚園・学校・地域・職域と歯科医療機関との連携がとれている			
		○フッ素利用について情報が得られる			

●数値目標あり ○数値目標なし

#1 乳幼児健診事業（子ども家庭課） #2 ながおかヘルシープラン21最終評価事業報告（H24） #3 むし歯有病状況及び市町村歯科保健事業実施状況

【歯周病を予防する】

	めざすもの	指標項目	H24基準値	目標値	備考
健康目標	【歯周病を予防する】	【歯ぐきから出血している人の割合】 #2			
		●青年期(19～39歳)	39.5%	35.0%以下	
		●壮年期(40～64歳)	33.9%	30.0%以下	
		●高齢期(65歳以上)	21.6%	20.0%以下	
		●歯周病罹患率	53.3%	53.3%以下	
		●妊婦歯周病罹患率	47.1%	45.0%	
保健行動・生活習慣	【歯みがき・歯間部清掃】	●毎食後歯みがきをする人の割合(学童思春期以降)#2	65.0%	75.0%	
		●歯間部清掃用具を使用している人の割合(青年期以降)#2	36.5%	40.0%	
	【歯科医療機関の受診】	●歯科検診後、受診勧奨を受けたら早期に歯科医療機関を受診する			
		・検診受診者の歯肉炎の勧奨対象者の割合			
		小学校対象者割合	10.6%	7.0%	
		中学校対象者割合	18.5%	13.0%	
		・歯肉炎の勧奨対象者の受診率			
		小学校対象者の受診率	50.7%	70.0%以上	
		中学校対象者の受診率	41.5%	55.0%以上	
		●妊婦歯科健診受診率	40.6%	60.0%	
		●歯周疾患検診受診率	10.3%	10.3%以上	
	【生活習慣】	●喫煙しない			
		・妊婦の喫煙率	3.4%	3.4%以下	
		・未成年者の喫煙率 #2			
		高校2年生	4.4%	0.0%	
		・喫煙している人の割合 #2			
		青年期男性	45.8%	27.5%	ながおかヘルシープラン21と同様
		青年期女性	13.9%	8.3%	ながおかヘルシープラン21と同様
		壮年期男性	43.0%	25.8%	ながおかヘルシープラン21と同様
		壮年期女性	9.8%	5.9%	ながおかヘルシープラン21と同様
前提要因	【歯科疾患の原因・予防法について理解している】	○歯間部清掃を軸とした口腔清掃の意義			
		●喫煙が歯周組織に及ぼす害を知っている人の割合(学童思春期以降) #2	62.2%	75.0%	
強化要因	【歯科保健指導を受けたことがある人】	●歯みがき指導(青年期以降) #2	67.5%	82.0%	
		●歯間清掃用具指導(青年期以降) #2	47.2%	67.0%	
実現要因	【歯科医師、歯科衛生士による予防処置を受けられる】	○歯科健診・保健指導を受けやすい体制がある			
		○シーラント処置			
		○定期的な歯石除去等			

○数値目標なし ●数値目標あり

#1 乳幼児健診事業(子ども家庭課) #2 ながおかヘルシープラン21最終評価事業報告(H24)

#3 むし歯有病状況及び市町村歯科保健事業実施状況

【口腔機能を維持する】

	めざすもの	指標項目	H24年基準値	目標値	備考
健康目標	【口腔機能を維持する】	【現在歯】20本以上　#2			
		●70歳（65～74歳）	62.2%	70.0%	健康にいがた21　60%以上
		●80歳（75～84歳）	35.8%	40.0%	健康にいがた21　30%以上
		●口腔疾患に起因する生活上の困りごとがない人の割合（学童思春期以降）#2	78.9%	85.0%	健康にいがた21　80%以上
		●基本チェックリスト口腔機能該当者割合	16.4%	15.0%以下	
保健行動・生活習慣	【歯みがき・歯間部清掃】	●毎食後歯みがきをする人の割合（学童思春期以降）#2	65.0%	75.0%	
		65歳以上	64.5%	84.0%	
		●歯間部清掃用具を使用している人の割合（青年期以降）#2	36.5%	40.0%	
	【歯科医療機関の受診】	●歯科検診後、受診勧奨を受けたら早期に歯科医療機関を受診する			
		・検診受診者の歯肉炎の勧奨対象者の割合			
		小学校対象者割合	10.6%	7.0%	
		中学校対象者割合	18.5%	13.0%	
		・歯肉炎の勧奨対象者の受診率			
		小学校対象者の受診率	50.7%	70.0%以上	
		中学校対象者の受診率	41.5%	55.0%以上	
		●定期的に歯科医療機関を受診する人の割合(青壮年期)#2	25.3%	35.0%	
	【生活習慣】	●歯・口腔の健康に配慮した食生活を行う			
		・1日2食以上、主食・主菜・副菜がそろう割合　#2			
		小学5年生	80.9%	88.0%	
		中学2年生	81.1%	85.0%	
		高校2年生	68.8%	75.0%	
		65歳以上	81.7%	88.0%	
前提要因	【歯科疾患の原因・予防法について理解している】	○歯・口腔の機能の重要性について認識している			
		●フッ素によるむし歯予防を有益と理解している人の割合(青年期以降)#2	43.7%	60.0%	
		○歯間部清掃を軸とした口腔清掃の意義			
		●喫煙が歯周組織に及ぼす害を知っている人（学童思春期以降）#2	62.2%	75.0%	
強化要因	【寝たきり者・障害児（者）への歯科保健サービスと歯科医療】	○在宅要介護者等歯科保健推進事業実施者数	32人		
		○障害児（者）等歯科保健推進事業実施数（13施設中）	7施設		
	【高齢者への口腔機能向上】	●二次予防事業における口腔機能向上プログラム実施者数	804人	804人以上	
実現要因	【歯科医師、歯科衛生士による予防処置を受けられる】	○歯科健診・保健指導を受けやすい体制がある			
		○定期的な歯石除去等			
		○保育園・幼稚園・学校・地域・職域と歯科医療機関との連携がとられている			

○数値目標なし　●数値目標あり

#1　乳幼児健診事業（子ども家庭課）　#2　ながおかヘルシープラン21最終評価事業報告（H24）

#3　むし歯有病状況及び市町村歯科保健事業実施状況

第2章　各論　ライフステージにおける取り組み

1　出生前(胎児及び妊婦)

（１）歯科的特徴

○妊娠中は、胎児の顎の中で歯ができはじめます。この時期、妊婦は胎児の歯の形成に必要な栄養素を適切に摂取することが重要です。

○妊婦は唾液が酸性となり、粘りが強くなるなどの生理的変化から、歯周病にかかりやすくなります。

（２）現状と課題

○胎児の歯の形成に必要な栄養素が適切に摂取されるよう、妊婦に対して栄養指導や歯科保健指導を行うことが必要です。

○妊娠期は歯周疾患にかかりやすい時期であり、さらに喫煙は歯周病との関連が深いため、妊婦歯科健診等で禁煙の周知や歯周病予防を行うことが必要です。

【妊婦歯科健診受診状況】

	受診票交付数	受診者数	受診率	要精検　・要治療率	
					歯周治療（再掲）
H22	2,416	647	26.8%	85.6%	280（43.3%）
H23	2,237	908	40.6%	86.7%	428（47.1%）

※保健衛生の概要より

【妊婦の喫煙状況】

	妊娠届出数	喫煙者割合
H21	2,359	3.9%
H22	2,353	3.2%
H23	2,237	3.4%

※保健衛生の概要より

（３）取り組み

○歯科医療機関で妊婦歯科健診及び歯科保健指導を実施し、むし歯や歯周病の予防に努めます。

○母子健康手帳交付時に歯科に関する保健指導を実施し、妊婦のむし歯や歯周病の予防に努めます。

○母子保健推進員による子育て支援地区活動において、むし歯予防を推進します。

○健康への関心が高まる妊娠期から、かかりつけの歯科医療機関を持ち、妊婦だけでなく家族全体の歯の健康への意識を高め、子どものむし歯予防にもつながるよう歯科保健教育・相談の充実に努めます。

（４）目標値

【健康目標】

指標項目	現状値	目標値
妊婦歯周病罹患率	４７．１％	４５．０％

【保健行動・生活習慣】

指標項目	現状値	目標値
妊婦歯科健診受診率	４０．６％	６０．０％
妊婦の喫煙率	３．４％	３．４％以下

2 乳幼児期(0～6歳)

（1）歯科的特徴

○６か月頃から乳歯が生え始め、それに合わせて味覚や食べる機能が発達形成される時期です。

○５～６か月頃から食べる機能が発達してきますが、生え始めて間もない歯の質は弱く、むし歯になりやすい時期です。

○２歳半頃に乳歯の歯並びが完成します。乳歯のむし歯は永久歯への正常な生えかわりに悪影響を及ぼし、永久歯列の歯列不正を引き起こします。

○４～５歳頃からかみ合わせの中心となる第一大臼歯が生え始めます。

○幼児期は生えそろった乳歯のむし歯が急増する時期です。

（2）現状と課題

○１歳６か月児と３歳児のむし歯有病者率は歯科保健対策の推進により年々減少していますが、国や県と比較すると若干上回っています。今後さらに有病者率を下げていく必要があります。

【むし歯有病者率の推移】

	1歳6か月児			3歳児		
	長岡市	新潟県	全国	長岡市	新潟県	全国
H18	3.1	2.9	3.0	27.4	25.8	26.6
H19	3.0	2.6	2.8	26.4	24.3	25.9
H20	2.0	2.4	2.7	25.4	22.8	24.6
H21	2.3	2.4	2.5	22.6	20.6	23.0
H22	2.3	2.2	2.3	21.0	19.2	21.5
H23	2.1	2.1	2.2	21.1	17.2	20.5

※むし歯有病状況及び市町村歯科保健事業実施状況より

○乳幼児期は、自分だけでは十分に歯の健康管理ができないため、保護者の保健行動や生活習慣に大きく影響を受けます。また、一人の子が持つむし歯数には個人差が大きくみられることなどから、保護者に対してむし歯予防に関する保健行動や生活習慣等の知識を普及し、歯科保健意識を高めることが必要です。

（３）取り組み

【０歳～就園　家庭での取り組み】

○乳幼児健診において歯磨き指導や歯科相談など個別の指導を充実させ、歯の健康への関心を高める動機づけを行います。また、同時に歯科保健に関する情報提供を行い、歯の健康管理ができるよう支援します。

○乳児相談時に歯科保健相談及び指導を実施し、乳歯のむし歯予防に努めます。

○フッ素塗布事業（１歳６カ月児、２歳児、３歳児）を推進し、フッ素を用いた歯の健康管理を継続できるように支援します。

○「歯と口の健康週間」事業を推進します。

○母子保健推進員による子育て支援地区活動において、歯科衛生士等の協力を得ながら地域の実情に合わせた指導を各地域で実施し、むし歯予防に努めます。

【就園児　園での取り組み】

○定期的な歯科検診及び検診後の治療勧奨を実施し、むし歯予防に努めます。

○食後の歯みがき指導を推進し、乳歯のむし歯予防に努めます。

○園でのフッ素洗口事業を推進し、フッ素を用いた歯の健康管理が継続できるように支援します。

○園児や保護者を対象とした保健指導及び食教育などの健康教育を通して、歯科保健に関する知識の普及啓発を図ります。

（４）目標値

【健康目標】

指標項目	現状値	目標値
一人平均むし歯数（３歳児）	０．８７本	０．６本以下
一人平均むし歯数（５歳児）	１．８５本	１．０本以下
むし歯のない子　（３歳児）	７８．９％	９０．０％
むし歯のない子　（５歳児）	６０．８％	７０．０％

【保健行動・生活習慣】

指標項目	現状値	目標値
仕上げみがきをしている家庭（１歳６か月児）	９０．３％	９５．０％
仕上げみがきをしている家庭（３歳児）	９７．２％	９８．０％
おやつの時間を決めている（１歳６か月児）	７３．５％	７８．０％
おやつの時間を決めている（３歳児）	８０．１％	８８．０％
フッ素塗布実施率　（１歳６か月児）	７３．８％	７５．０％
フッ素塗布実施率　（２歳児）	６７．２％	７０．０％
フッ素塗布実施率　（３歳児）	６４．３％	７０．０％
フッ素洗口事業実施率　幼稚園	２１．１％	２１．１％
フッ素洗口事業実施率　保育園	２４．４％	３５．０％

【前提要因】

指標項目	現状値	目標値
フッ素によるむし歯予防を有益と理解している（青年期以降）	４３．７％	６０．０％

【実現要因】

指標項目	現状値	目標値
保育園・幼稚園でのむし歯予防教室の実施率	９３．７％	９５．０％以上

3 学童･思春期(7～18歳)

（１）歯科的特徴

○歯の成長とともに顎が発達し、乳歯から永久歯に生え変わる時期です。

○むし歯や歯肉炎に罹患する児童・生徒が増加します。

○思春期はホルモンのバランス等により、わずかな歯垢の付着でも歯周病にかかりやすくなる時期です。

（２）現状と課題

○生え変わってくる永久歯をむし歯にしない予防対策が重要です。

○中学生以降は歯周病にかかりやすいため、その予防対策が必要となります。

○むし歯がある児童・生徒は、年々減少傾向にあります。全くむし歯がない児童・生徒が増加する一方で、未治療のままのむし歯や、１人でたくさんのむし歯がある児童・生徒がいるなど、子どもによって差がみられます。

○けが等の外傷による歯の破折や喪失が発生する危険性があります。

【長岡市児童生徒の歯肉炎罹患率】

	小学生	中学生
H19	2.3%	4.1%
H20	2.0%	3.9%
H21	2.0%	2.7%
H22	2.2%	3.8%
H23	2.8%	3.8%

【長岡市児童生徒のむし歯有病者率】

	小学生	中学生
H19	14.3%	36.9%
H20	14.0%	36.1%
H21	13.1%	33.6%
H22	11.9%	27.9%
H23	10.2%	30.4%

（３）取り組み

○定期的な歯科検診及び検診後の治療勧奨を実施し、むし歯予防に努めます。

○小中学校のフッ素洗口事業を推進し、むし歯予防に努めます。

○小中学校の教科等における健康教育等を推進し、歯と口腔に対する意識啓発に努めます。

○歯周病予防対策として、歯間部清掃指導を推進します。

（４）目標値

【健康目標】

指標項目	現状値	目標値
一人平均むし歯数（１２歳）	０．６２本	０．５本以下
一人平均むし歯数（１７歳）	１．５３本	１．０本以下
むし歯のない子　（１２歳）	７２．７％	８３．０％
むし歯のない子　（１７歳）	５５．０％	６０．０％

【保健行動・生活習慣】

指標項目	現状値	目標値
毎食後歯みがきをする（小５）	８７．２％	９０．０％
毎食後歯みがきをする（中２）	８３．８％	８５．０％
毎食後歯みがきをする（高２）	６２．４％	６５．０％
未成年者の喫煙率（高２）	４．４％	０．０％
歯科検診のう蝕の受診勧奨対象者割合（小学生）	４．３％	２．０％
歯科検診のう蝕の受診勧奨対象者割合（中学生）	８．９％	４．０％
う蝕の受診勧奨対象者の受診率（小学生）	４１．１％	５０．０％
う蝕の受診勧奨対象者の受診率（中学生）	３３．７％	４０．０％
歯科検診の要観察歯の受診勧奨対象者割合（小学生）	７．８％	５．０％
歯科検診の要観察歯の受診勧奨対象者割合（中学生）	１３．４％	１０．０％
要観察歯の受診勧奨対象者の受診率（小学生）	５１．７％	５６．０％
要観察歯の受診勧奨対象者の受診率（中学生）	３９．４％	４５．０％
歯科検診の歯肉炎の受診勧奨対象者割合（小学生）	１０．６％	７．０％
歯科検診の歯肉炎の受診勧奨対象者割合（中学生）	１８．５％	１３．０％
歯肉炎の受診勧奨対象者の受診率（小学生）	５０．７％	７０．０％以上
歯肉炎の受診勧奨対象者の受診率（中学生）	４１．５％	５５．０％以上
１日２食以上、主食・主菜・副菜がそろう（小５）	８０．９％	８８．０％
１日２食以上、主食・主菜・副菜がそろう（中２）	８１．１％	８５．０％
１日２食以上、主食・主菜・副菜がそろう（高２）	６８．８％	７５．０％
フッ素洗口事業実施率（小学校）	３８．３％	８３．０％
フッ素洗口事業実施率（中学校）	１１．１％	１３．０％

【前提要因】

指標項目	現状値	目標値
喫煙が歯周組織に及ぼす害を知っている（高２）	７３．５％	８５．０％

【実現要因】

指標項目	現状値	目標値
小学校でのむし歯・歯肉炎予防教室の実施率	１００．０％	１００．０％
中学校でのむし歯・歯肉炎予防教室の実施率	７０．４％	９０．０％

4 青年期(19～39歳)

（１）歯科的特徴

○歯周組織が弱くなり、むし歯や歯周病が進行する時期です

（２）現状と課題

○口腔の健康に対しての関心が薄く、定期的な歯科検診や保健指導を多くの人が受けていない現状があります。しかし、義務的な歯科検診や保健指導がないため、自身での口腔の健康管理が必要な時期です。
健康な口腔状態の維持や歯科疾患の進行を防止するため、定期的な歯科受診や歯石除去等を受けてもらえるよう、自身の口腔の健康に対する意識を高めていく必要があります。

（３）取り組み

○妊婦歯科健診を推進します。

○歯と口腔の健康が糖尿病や心臓病などの生活習慣病予防につながり、豊かな人生を送るための基礎となることを、地域における歯科健康教育等を通して啓発します。

（４）目標値

【健康目標】

指標項目	現状値	目標値
妊婦歯科健診　歯周病罹患率	４７．１％	４５．０％
歯ぐきから出血することがある	３９．５％	３５．０％以下
口腔疾患に起因する生活上の困りごとがない	７８．６％	８８．０％以上

【保健行動・生活習慣】

指標項目	現状値	目標値
定期的に歯科医院を受診する	２２．１％	２５．０％以上
妊婦歯科健診受診率	４０．６％	６０．０％以上
毎食後歯みがきをする	５５．７％	６０．０％
歯間清掃具を利用している	３０．９％	３５．０％
喫煙している　（男性）	４５．８％	２７．５％
喫煙している　（女性）	１３．９％	８．３％

【前提要因】

指標項目	現状値	目標値
フッ素によるむし歯予防を有益と理解している	４６．２％	５６．０％以上
喫煙が歯周組織に及ぼす害を知っている	５９．５％	６５．０％以上

【強化要因】

指標項目	現状値	目標値
歯科医院で歯みがき指導を受けたことがある	６５．５％	７０．０％以上
歯科医院で歯間清掃具の指導を受けたことがある	４２．５％	４５．０％以上

5 壮年期（40～64歳）

（１）歯科的特徴

○歯の喪失が増加し、食べたり飲んだり、かんだりする機能が低下し始めます。

○むし歯や歯周病が進行する時期です。

（２）現状と課題

○青年期と同様に口腔の健康に対しての関心が薄く、定期的な歯科検診や保健指導を多くの人が受けていない現状があります。しかし、義務的な歯科検診や保健指導がないため、自身での口腔の健康管理が必要な時期です。

むし歯や歯周病の進行を予防するため、歯周疾患検診や定期的な歯科医療機関の受診等の啓発を行っていく必要があります。

○歯周疾患検診では受診率が１０．３％という現状です。歯周病予防や悪化防止のため、さらなる受診率の向上を目指す必要があります。

【歯周疾患検診実施状況】

	対象者数	受診者数	受診率	要精検・要治療率	
					歯周治療（再掲）
H18（中間評価）	13,669	1,555	11.4%	89.0%	878（56.5%）
H21	15,085	1,459	9.7%	88.1%	781（53.5%）
H22	15,400	1,465	9.5%	89.6%	801（54.7%）
H23	15,343	1,574	10.3%	89.6%	839（53.3%）

※保健衛生の概要より

（３）取り組み

○４０歳、５０歳、６０歳を対象に、健康増進法に基づいた歯周疾患検診を推進します。

○歯と口腔の健康が糖尿病や心臓病などの生活習慣病予防につながり、豊かな人生を送るための基礎となることを、地域における歯科健康教育等を通して啓発します。

（４）目標値

【健康目標】

指標項目	現状値	目標値
歯周疾患検診　歯周病罹患率	５３．３％	５３．３％以下
歯ぐきから出血することがある	３３．９％	３０．０％以下
口腔疾患に起因する生活上の困りごとがない	７０．５％	８０．０％

【保健行動・生活習慣】

指標項目	現状値	目標値
定期的に歯科医院を受診している	２８．５％	３０．０％以上
歯周疾患検診　受診率	１０．３％	１０．３％以上
毎食後歯みがきをする	５１．７％	５５．０％
歯間清掃具を使用している	４１．６％	４５．０％
喫煙している　（男性）	４３．０％	２５．８％
喫煙している　（女性）	９．８％	５．９％

【前提要因】

指標項目	現状値	目標値
フッ素によるむし歯予防を有益と理解している	４５．６％	５５．０％以上
喫煙が歯周組織に及ぼす害を知っている	５７．５％	６５．０％

【強化要因】

指標項目	現状値	目標値
歯科医院で歯みがき指導を受けたことがある	６８．３％	７０．０％以上
歯科医院で歯間清掃具の指導を受けたことがある	５０．３％	７０．０％以上

6 高齢期(65歳～)

（１）歯科的特徴

○むし歯や歯周病による歯の喪失、咀嚼関連筋の加齢変化、廃用性萎縮により咀嚼する・飲み込むなどの口腔機能の低下が生じ、低栄養等全身機能の低下につながりやすい時期です。

（２）現状と課題

○平成１８年度の介護保険制度改正で、介護予防としての口腔機能の向上が重要視されました。

○「平成２３年度　長岡市高齢者日常生活圏域ニーズ調査」の結果、一般高齢者全体の１６．３％、虚弱な高齢者（二次予防事業対象者）においては、５２．９％に口腔機能低下がみられました。二次予防事業対象者は、半数以上に口腔機能低下が認められるため、さらに口腔機能改善に取り組む必要があります。

　また、後期高齢者における口腔機能低下者の割合は前期高齢者の２倍程度であったことから、後期高齢者への啓発や口腔機能向上への取り組み支援が必要です。

（３）取り組み

○７０歳を対象に健康増進法に基づいた歯周疾患検診を推進します。

○虚弱な高齢者を対象とした二次予防事業において口腔機能向上プログラムを推進します。

○元気な高齢者を対象とした一次予防事業として、実技をとおした講座等により、口腔機能の維持・向上の必要性を普及啓発します。

（４）目標値

【健康目標】

指標項目	現状値	目標値
歯周疾患検診　歯周病罹患率	５３．３％	５３．３％以下
歯ぐきから出血することがある	２１．６％	２０．０％以下
７０歳（６５～７４歳）で２０本以上自分の歯を有する	６２．２％	７０．０％
８０歳（７５～８４歳）で２０本以上自分の歯を有する	３５．８％	４０．０％
基本チェックリスト口腔機能該当者割合	１６．４％	１５．０％以下
口腔疾患に起因する生活上の困りごとがない	６３．７％	７３．０％

【保健行動・生活習慣】

指標項目	現状値	目標値
歯周疾患検診　受診率	１０．３％	１０．３％以上
毎食後歯磨きをする	６４．５％	８４．０％以上
１日２食以上、主食・主菜・副菜がそろう割合	８１．７％	８８．０％
歯間清掃具を利用している	３７．３％	４０．０％

【前提要因】

指標項目	現状値	目標値
フッ素によるむし歯予防を有益と理解している	３５．３％	４５．０％以上
喫煙が歯周組織に及ぼす影響を知っている	６４．４％	７０．０％

【強化要因】

指標項目	現状値	目標値
歯科医院で歯みがき指導を受けたことがある	６９．５％	７５．０％以上
歯科医院で歯間清掃具指導を受けたことがある	５０．３％	５５．０％以上
二次予防事業口腔機能向上プログラム実施者数	８０４人	８０４人以上

7 障害児(者)・要介護者

（１）歯科的特徴

○口腔機能の低下から、むせ、せき、誤嚥が起こりやすくなります。

○障害のある人は、有する障害や疾病などの影響を受けやすく、口腔内の状態は個人差が大きくなります。

（２）現状と課題

○自分で歯みがきすることが困難なことから、口腔内が不衛生になりやすい状態にあります。誤嚥性肺炎の予防や食事をおいしく食べるため、口腔ケアを充実する必要があります。

○通院が困難な方に対して、訪問、居宅サービスを促進し専門家による歯科検診や歯科保健指導を行うことが重要です。

○新潟県事業の障害児（者）歯科保健推進事業及び要介護者等歯科保健推進事業を活用し、在宅における歯科治療の充実を図る必要があります。

（３）取り組み

○障害児（者）歯科保健推進事業（※１）及び要介護者等歯科保健推進事業（※２）を広く周知し、利用促進と在宅における歯科治療の充実を図ります。

（４）目標値

【強化要因】

指標項目	現状値
在宅要介護者等歯科保健推進事業実施者数	３２人
障害児（者）等歯科保健推進事業実施数	７施設／１３施設

※１：障害児（者）施設に歯科医師・歯科衛生士が訪問し、歯科健診・保健指導を実施。

※２：①訪問歯科健診事業 - 在宅の要介護者等で、通院が困難な方への居宅へ歯科医師・歯科衛生士が訪問し、歯科健診・保健指導を実施。

②口腔ケア実地研修事業 - 指定通所介護事業所等の職員の方々を対象に、口腔機能向上に関する研修会を実施。

各ライフステージにおける歯科

ライフステージ		出生前	乳幼児期（0～6歳）			学童・思春期（7～18歳）	
対象		妊婦	0歳～就園	園児		小学生	中学生
歯科的特徴		生理的変化	乳児期：乳前歯が生え始める時期 幼児期：乳臼歯が生え始める時期 ～乳歯列の完成期		永久歯（第一大臼歯）が生え始める時期	乳歯と永久歯の交換時期	永久歯列完成時期 歯周組織の過敏期
歯科的課題問題点		永久歯むし 歯歯周病	乳歯むし歯			永久歯むし歯 歯周病（歯肉炎）	
健康目標	むし歯をつくらない	○妊婦歯科健診の実施	○幼児歯科健診（1歳6か月・2歳・3歳）及び歯科保健指導の実施 ○フッ素塗布の実施（1歳6か月・2歳・3歳） ○乳児相談時歯科保健相談の実施 ○母子保健推進員の子育て 支援地区活動 →むし歯予防活動を実施	○定期的な歯科健診・治療勧奨の実施 ○保育園でのフッ素洗口の 実施及び検討 ○園児への保健指導の実施 ○園児・保護者への健康教育の実施		○定期的な歯科検診・治療勧奨の実施 ○小・中学校でのフッ素洗口の実施及び検討 ○歯間部の清掃指導の実施 →ブラッシング指導時デンタルフロスの使い方を指導 ○教科等における健康教育の実施	
	歯周病を予防する	○妊婦歯科健診の実施				○定期的な歯科検診・治療勧奨の実施 ○小・中学校でのフッ素洗口の実施及び検討 ○歯間部の清掃指導の実施 →ブラッシング指導時デンタルフロスの使い方を指導 ○教科等における健康教育の実施	
	口腔機能を維持する	○妊婦歯科健診の実施				○定期的な歯科検診・治療勧奨の実施 ○小・中学校でのフッ素洗口の実施及び検討 ○歯間部の清掃指導の実施 →ブラッシング指導時デンタルフロスの使い方を指導 ○教科等における健康教育の実施	
	その他			○保護者への啓発 （保健・給食・園だより等）		○歯科医との連携 （学校医や歯科衛生士等） ○保護者への啓発 （保健・給食だより等）	
		情報の収集・市民への情報提供					
関係課		子ども家庭課		保育課		学務課	
全てのライフステージに関与する関係団体		長岡歯科医師会・長岡市医師会・県歯科衛生士会中越支部・長岡市薬剤師会					

保健の取り組み（H24現在）

	青年期 （19～39歳）	壮年期 （40～64歳）	高齢期 （65歳以上）		その他
高校生	成人	成人	高齢者		障害児（者） 要介護者
第三大臼歯が 生え始める時期	歯周組織の脆弱期	歯の喪失開始時期	歯の喪失急増期 口腔機能の低下時期		各ライフステージと共通
永久歯むし歯					
	歯周病	歯周病	歯周病 歯の喪失（義歯処置）		
○定期的な歯科検診・治療勧奨の実施 ○養護教諭、学校歯科医、保健所職員による生徒への保健指導の実施	○健康教育の実施 ○妊婦歯科健診の実施	○歯周疾患検診の実施 （40歳・50歳・60歳） ○健康教育の実施	○歯周疾患検診の実施 （70歳）	○口腔機能向上の普及啓発・教育実施	
○定期的な歯科検診・治療勧奨の実施 ○養護教諭、学校歯科医、保健所職員による生徒への保健指導の実施	○健康教育の実施 ○妊婦歯科健診の実施	○歯周疾患検診の実施 （40歳・50歳・60歳） ○健康教育の実施	○歯周疾患検診の実施 （70歳）	○口腔機能向上の普及啓発・教育実施	
○定期的な歯科検診・治療勧奨の実施 ○養護教諭、学校歯科医、保健所職員による生徒への保健指導の実施	○健康教育の実施 ○妊婦歯科健診の実施	○歯周疾患検診の実施 （40歳・50歳・60歳） ○健康教育の実施	○歯周疾患検診の実施 （70歳）	○口腔機能向上の普及啓発・教育実施	
					○介護保険施設における口腔ケア実地研修事業の利用
歯科保健計画連絡会議の開催					
（県教育委員会）	健康課			長寿はつらつ課	福祉課 介護保険課 長寿はつらつ課

・　長岡市食生活改善推進委員協議会　・長岡市母子保健推進員協議会・長岡地域振興局

参考資料

1　ながおかヘルシープラン 21　アンケート結果　【歯科保健分野】

2　第１次　長岡市歯科保健計画　評価について

・【むし歯をつくらない】

・【歯周病を予防する】

・【歯の喪失を防ぐ】

１　ながおかヘルシープラン２１
アンケート結果
【歯科保健分野】

1. 調査の目的

長岡市では、健康診査事業や健康増進事業などを積極的に推進し、市民の健康づくりに努めてきました。

しかし、時代の変遷とともに、健康に対する価値観も多様化し、一人ひとりが日常生活の中で健康づくりを意識すること、そして一人ひとりの健康づくりが実現できる環境づくりが求められています。

そこで、病気の予防対策にとどまらず、家庭・地域社会・行政が一体となり、個人の健康が守られるまちづくりを進めるという視点を取り入れ、市民一人ひとりが主体的な取り組みができるように健康なまちづくり計画「ながおかヘルシープラン 21」基本計画を策定しました。また、それに併せ、生涯を通じた歯と口腔の健康づくりを目指し、行政・関係機関・市民が一体となって歯科保健対策を進めていくため、「長岡市歯科保健計画」を策定しました。

期間は両計画ともに平成15年度を初年度とし平成24年度を最終年度とする10年間です。平成 24 年度の次期計画の策定にむけて、市民の健康の現状把握、社会情勢や健康に対する価値観の変化等に対応するため、計画の最終評価と見直しのための最終評価アンケート調査を実施しました。内容は、乳幼児期から高齢期までの各世代の目標項目で、既存の調査や資料等で現状値が得られない項目について実施しました。

2. 調査対象者及び調査回収状況

長岡市に在住している市民で、基本計画に基づき、ライフサイクルを下記の 5 つの世代に分け、各世代において所属や生活形態に偏りがないように無作為に抽出しました。

なお、世代により所属している教育機関（保育園、幼稚園、小・中・高校、大学、専門学校）及び事業所（商工会議所を通して）から協力を得て実施しました。

各世代を合計した調査実施総数は 3,962 名でした。

また、各世代を合計した調査実施総数 3,962 名のうち有効回答者数は 3,642 名であり、全体の回収率は 91.9%でした。

アンケート実施対象者内訳 及び アンケート回収結果

年代		実施年齢･内訳等		実施数			回収数	回収率（%）
				本所	支所	計		
乳幼児期	0～3	6 か月	乳児健診受診者	154	99	253	229	90.5
		3 歳児	幼児健診受診者	213	122	335	268	80.0
	4～6	5 歳児（年長）	幼稚園(2) 保育園(12)	226	101	327	292	89.3
学童・思春期	7～12	小学 5 年生	小学校(11)	277	133	410	400	97.6
	13～15	中学 2 年生	中学校(8)	248	147	395	394	99.7
	16～18	高校 2 年生	高校(9)	400		400	364	91.0
青年期	19～39	大学 2 年生	大学(1) 専門学校(1)	100		100	96	96.0
		事業所等	市内事業所(54)	415	221	636	565	88.8
壮年期	40～64	事業所等	市内事業所(66) 総合健診受診者	486	239	725	667	92.0
高齢期	65～	老人クラブ等	老人会 事業参加者等	220	161	381	367	96.3
合　　計				2,739	1,223	3,962	3,642	91.9

3. 調査期間

平成２３年７月１１日（月）から平成２３年９月８日（木）

4. 調査項目

性別等の個人属性に関しては、各年代の共通項目として調査票の巻頭で調査し、健康についての価値観や生活実態などの項目は各年代の状況に即した項目を調査しました。

5. 調査方法

（1）乳幼児期（6 か月児、3 歳児）及び壮年期と老年期の一部は、健康診査会場（乳幼児健診等）や老人クラブ活動会場において、調査票を被調査者に配布し、自記式調査法により実施しました。

（2）上記以外の年代は、被調査者に調査票を配布し、留め置き法により実施しました。

6. 調査集計、分析

調査項目の単純集計及びクロス集計、集計結果の分析等については、長岡技術科学大学教授 中出文平氏に実施を委託しました。

7. 留意点

① 効回答者数

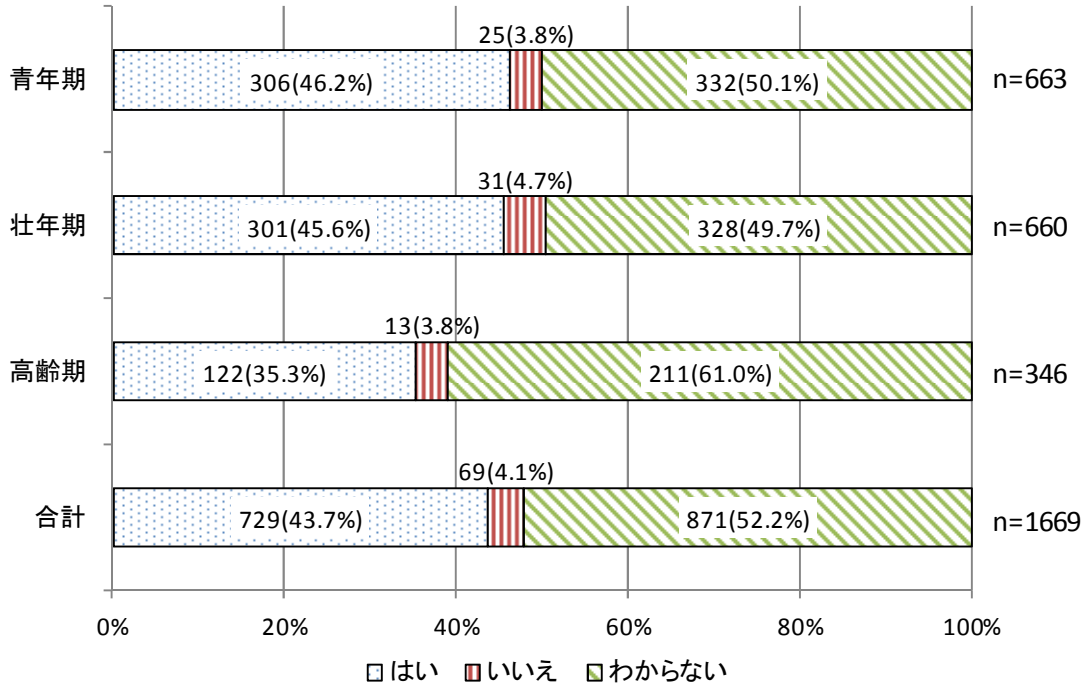
アンケート調査に基づく結果を記載しているため、質問項目・質問対象者ごとに回答者数が異なっています。よって、各質問における回答者総数を「有効回答者数（ｎ）」と定義し、グラフ内に「ｎ=〇〇」と記載しました。また、単一回答・複数回答ともに回答者総数を有効回答者数としました。

②グラフの表示方法

・すべてのグラフにおいて有効回答者数を基準とし、各回答の内訳を 100%グラフで表示。

・グラフ内表記は、上段：実回答数、下段（）内：構成比で示し、構成比における有効数字は下一桁。

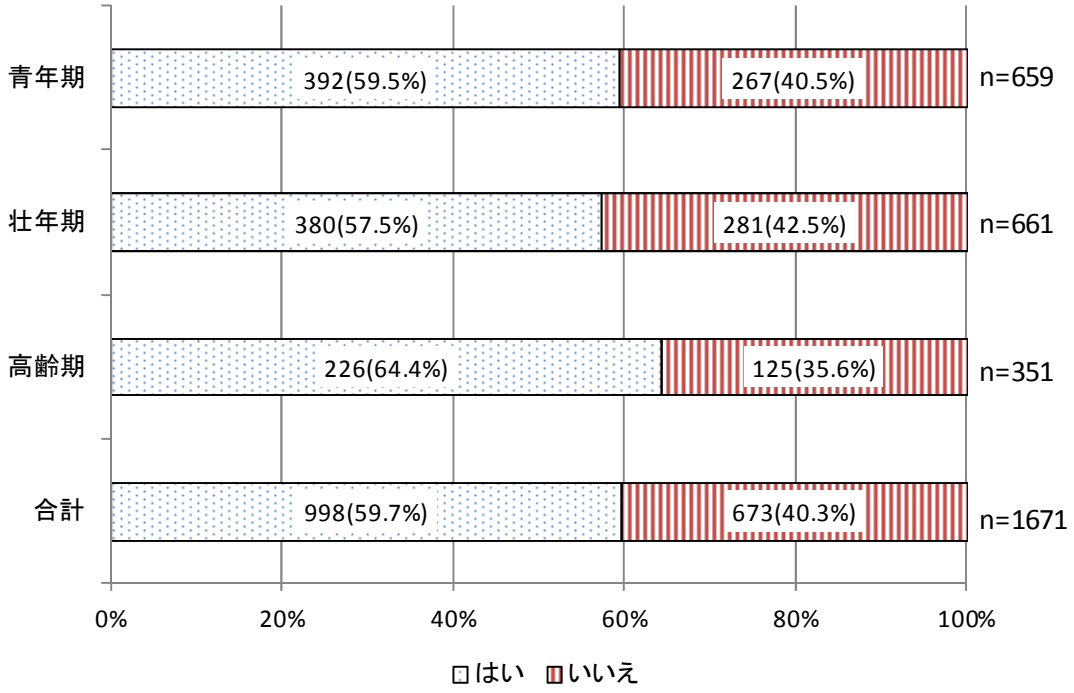
①「フッ化物によるむし歯予防を有益と理解している人」の割合



「フッ化物によるむし歯予防を有益と理解している」は、43.7%である。

年代別でみると、青年期 46.2%、壮年期 45.6%、高齢期 35.3%であり、高齢期が一番少ない。

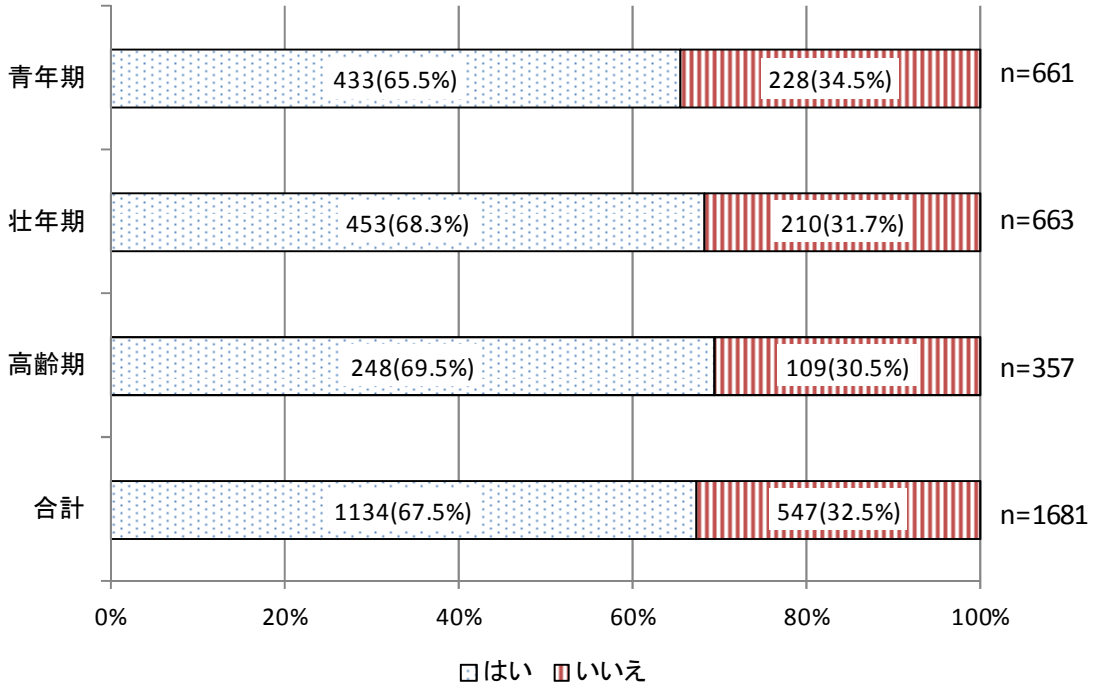
②「喫煙が歯周疾患に及ぼす害を知っている人」の割合



「喫煙が歯周疾患に及ぼす害を知っている」は、59.7%である。

年代別でみると、青年期 59.5%、壮年期 57.5%、高齢期 64.4%であり、青年期より高齢期の方が多い。

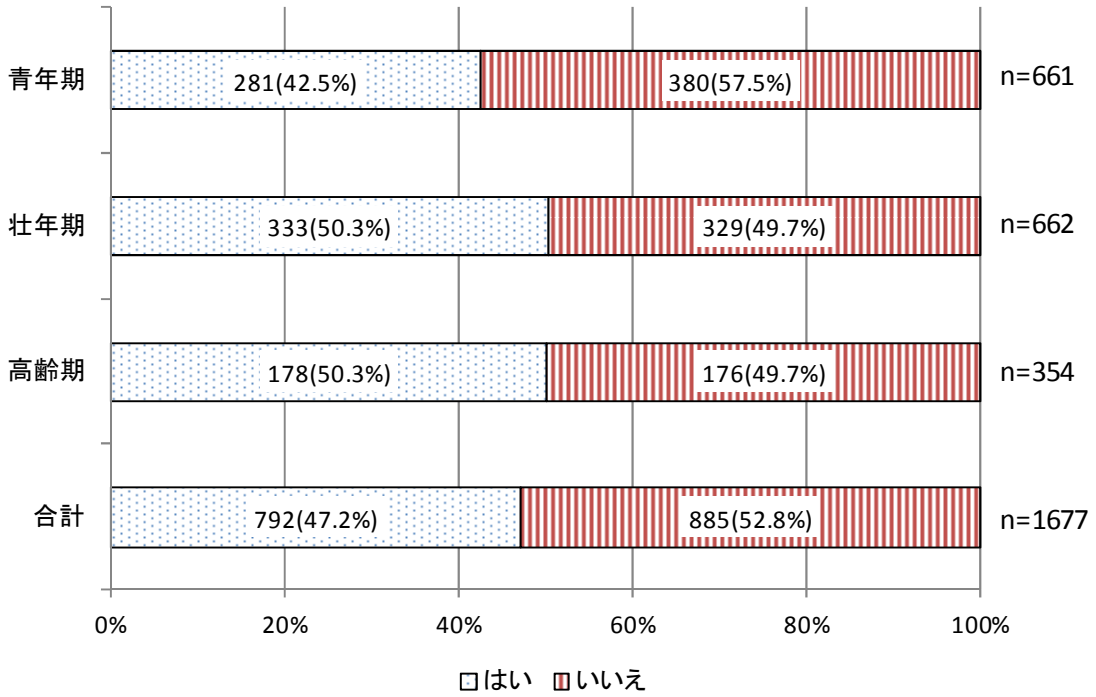
③「歯科保健指導を受けたことのある人」の割合



「歯科保健指導を受けたことがある」は、67.5%である。

年代別でみると、青年期 65.5%、壮年期 68.3%、高齢期 69.5%であり、各年代とも同じ傾向である。

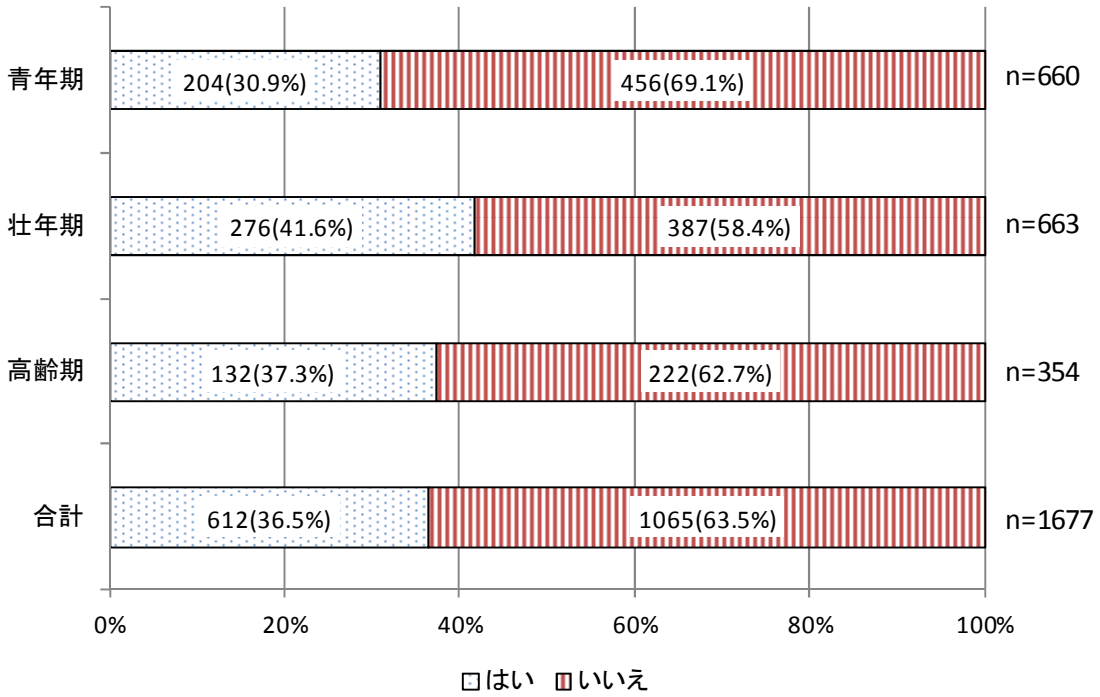
④「歯科医院で歯間清掃用具指導を受けたことのある人」の割合



「歯科医院で歯間清掃用具指導を受けたことがある」は、47.2%である。

年代別でみると、青年期 42.5%、壮年期 50.3%、高齢期 50.3%であり、青年期が一番少ない。

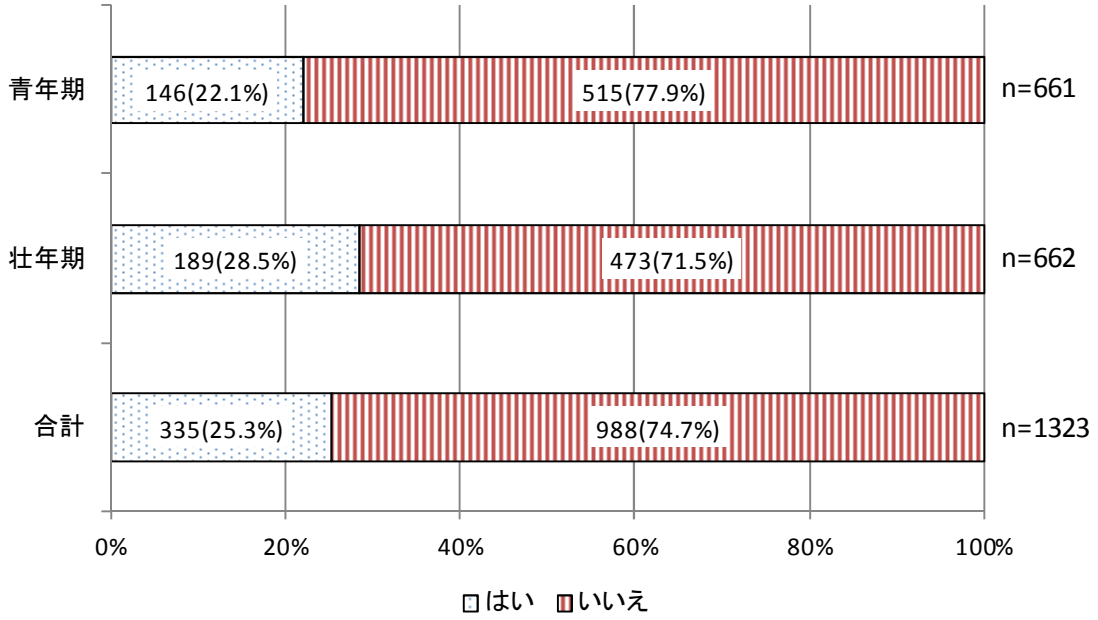
⑤「歯間清掃用具を使用している人」の割合



「歯間清掃用具を使用している」は、36.5%である。

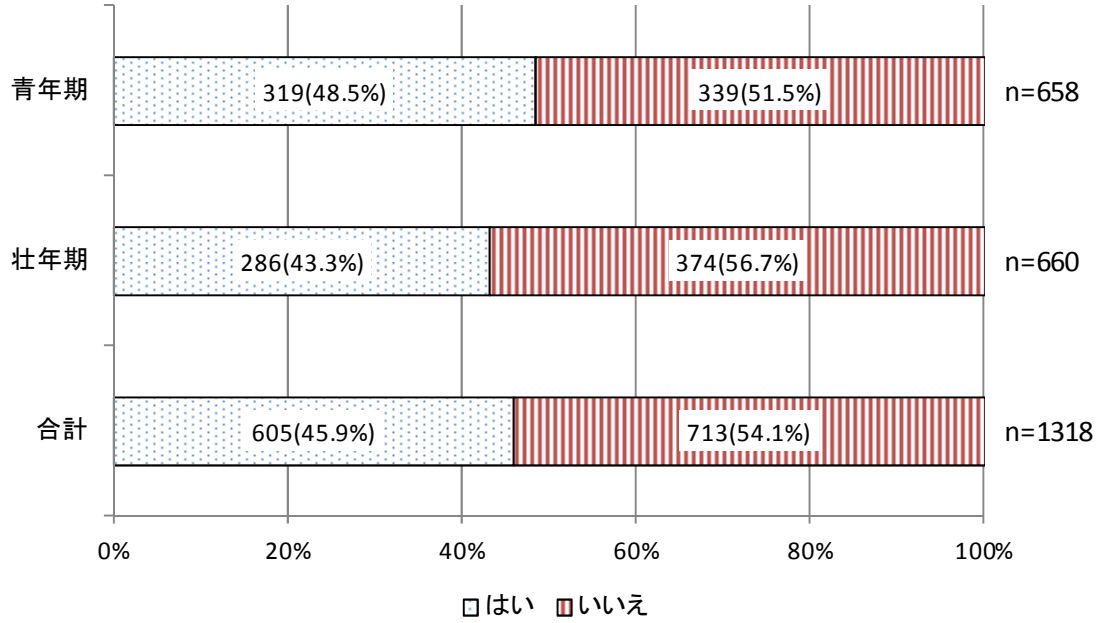
年代別でみると、青年期 30.9%、壮年期 41.6%、高齢期 37.3%であり、青年期が一番少ない。

⑥「定期的に歯科医院を受診している人」の割合



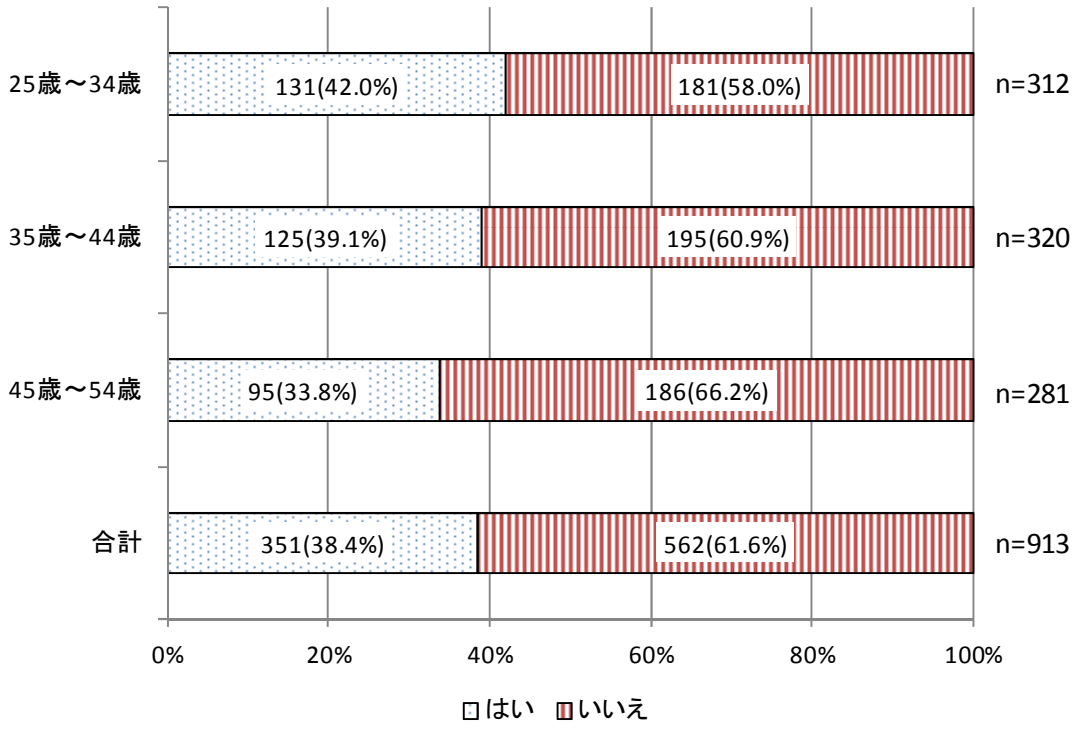
「定期的に歯科医院を受診している」は、25.3%である。
年代別でみると、青年期 22.1%、壮年期 28.5%であり、壮年期の方が多い。

⑦「フッ化物入り歯磨き剤を使用している人」の割合



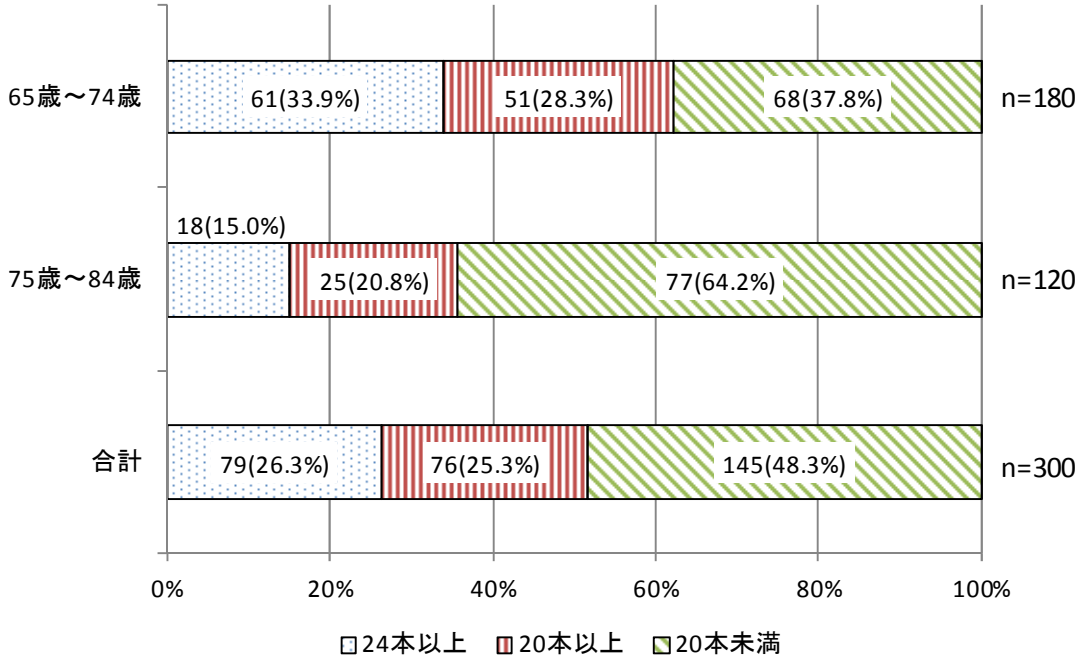
「フッ化物入り歯磨き剤を使用している」は、45.9%であり、壮年期より青年期の方が多い。

⑧「歯ぐきから出血している人」の割合



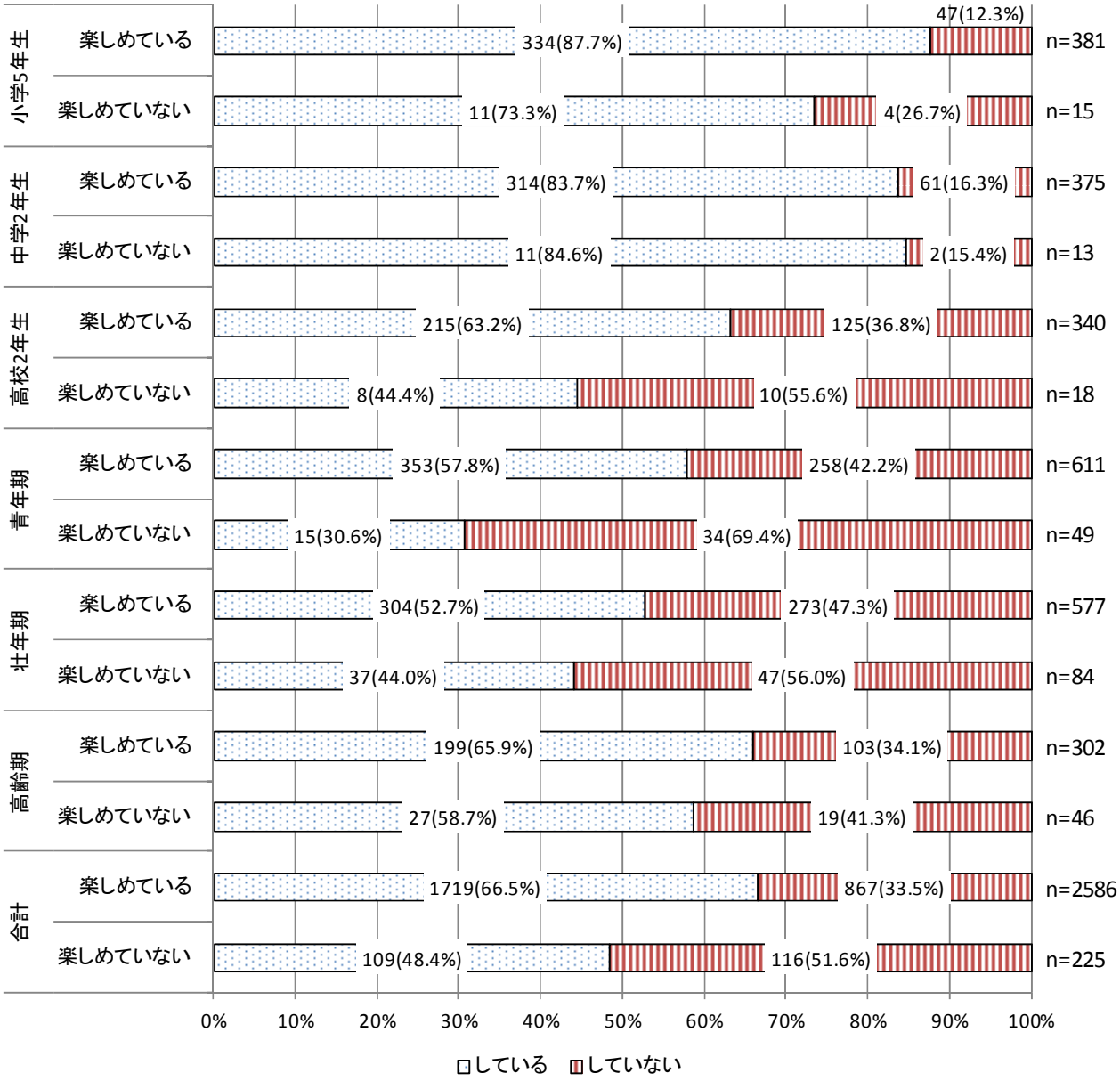
「歯ぐきから出血している」は、38.4%である。
年齢別でみると、45～54 歳が一番少ない。

⑨「現在の歯の本数」年代別



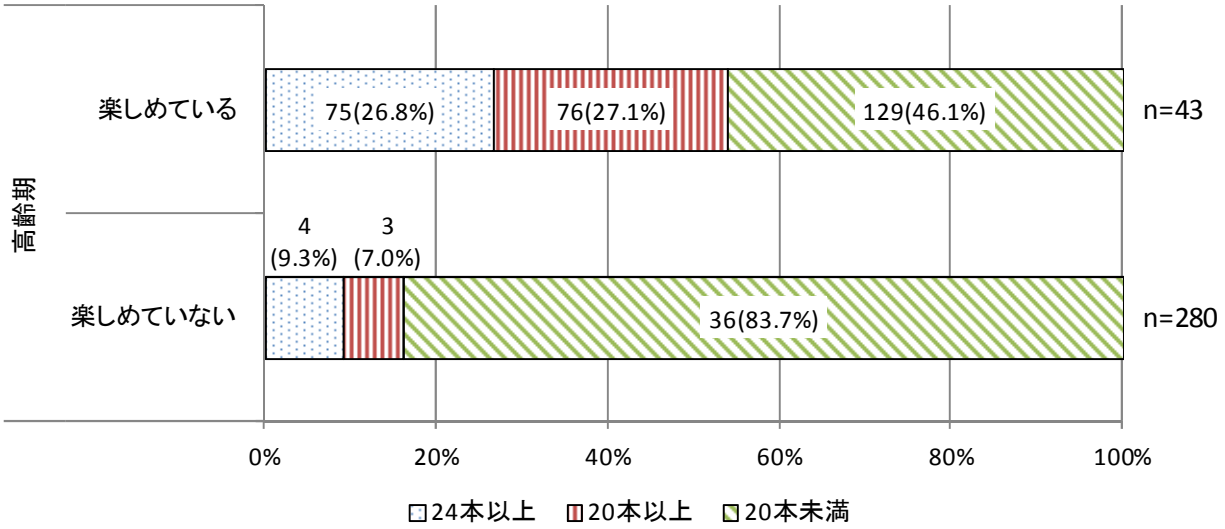
高齢期で「現在の歯が 24 本以上ある」は、26.3%である。

⑩－１「自分の歯で食生活を楽しめる」割合と「毎食後、歯磨きをしている」割合のクロス



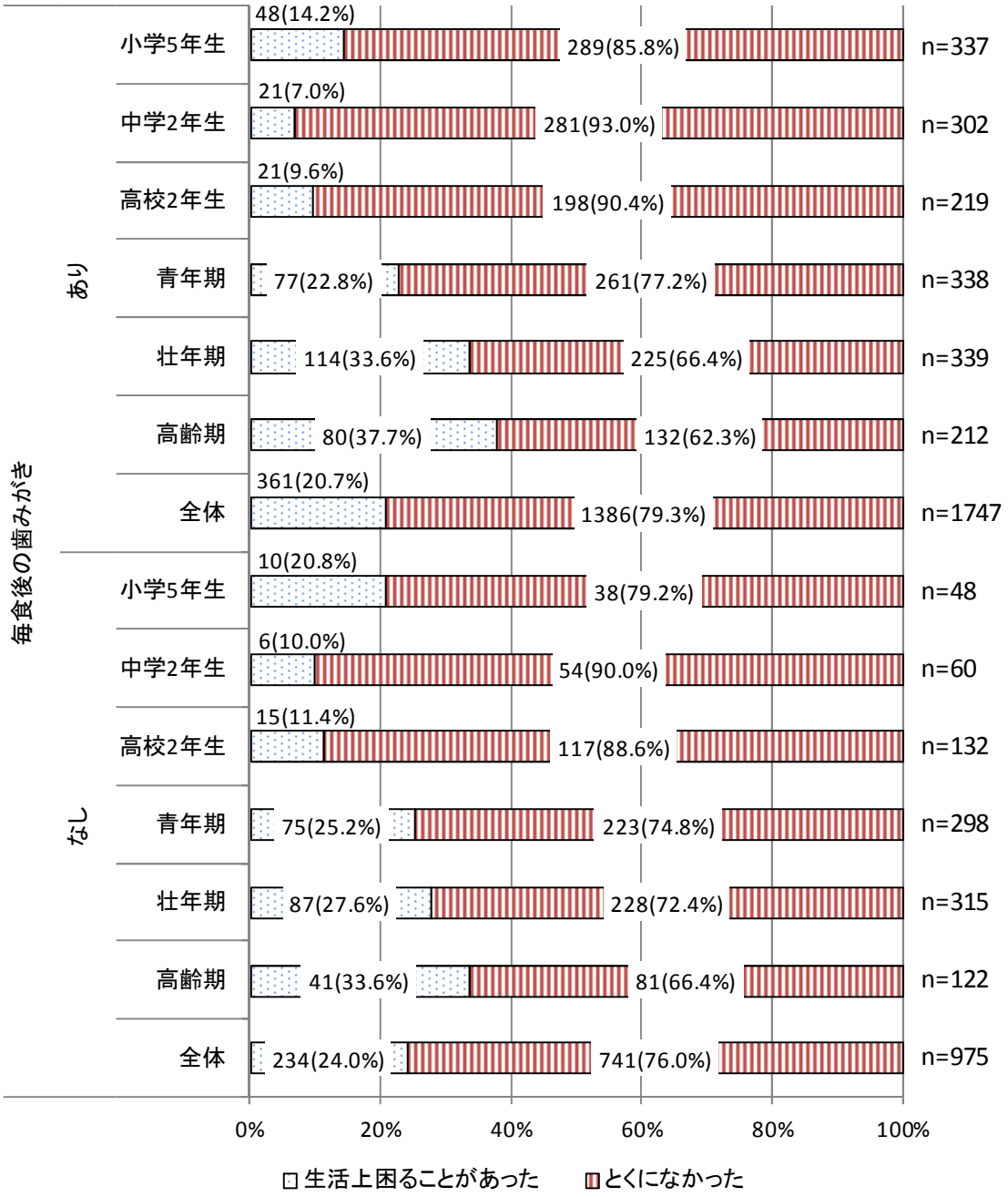
毎食後歯磨きをしている人で、自分の歯で食生活を楽しめている人の割合は 66.5%であり、毎食後歯磨きをしていない人よりも多い。

⑩－２「自分の歯で食生活を楽しめる」割合と「歯の本数」のクロス



自分の歯で食生活を楽しめていない人のうち、「歯の本数が 20 本未満」は 83.7%、自分の歯で食生活を楽しめている人のうち、「歯の本数が 20 本以上」は 53.9%である。歯の本数が 20 本未満だと、食生活を楽しめていない人が多い。

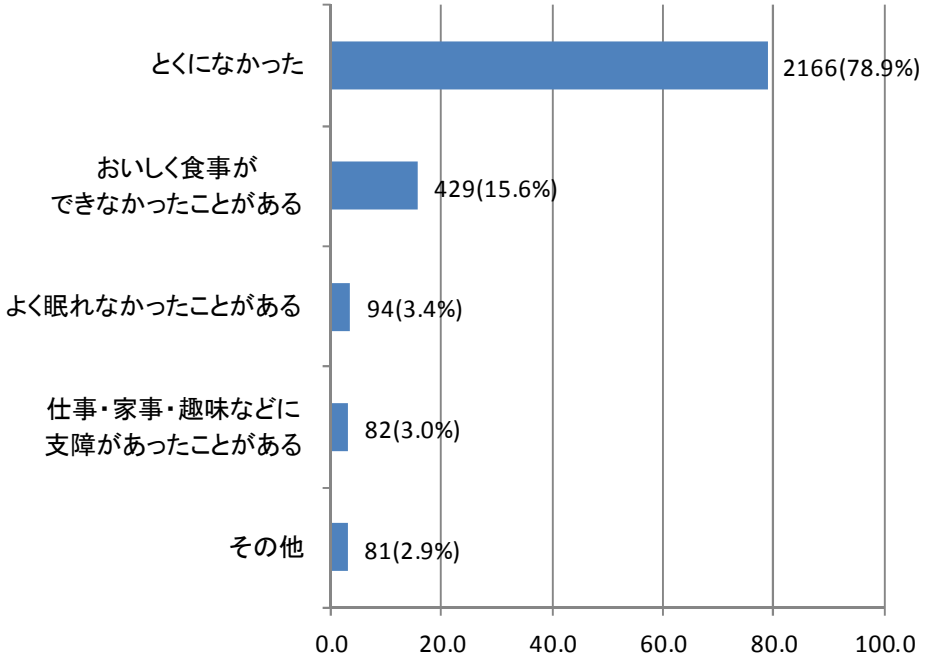
⑪「歯のことで生活上の困りごとがある」割合と「毎食後、歯磨きをしている」割合のクロス



「生活上の困りごと」と「毎食後の歯みがきの有無」では、差はみられない。

年代別でみると、小学５年生では、毎食後の歯みがきをしている人より、していない人の方が、生活上の困りごとがある人が多い。

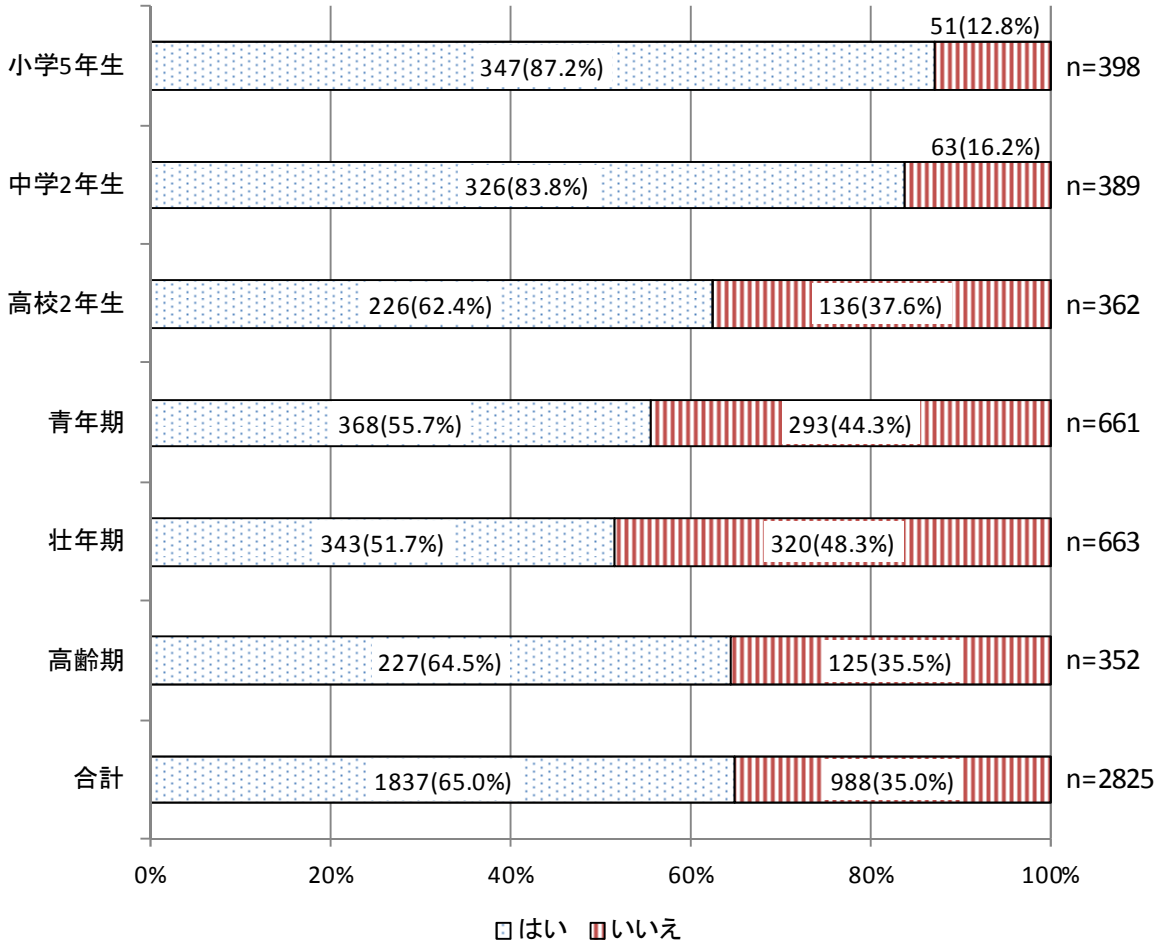
⑫「歯のことで生活上の困りごとがある」割合の多い順



「歯のことで生活上の困りごとが特になかった」は、78.9%である。

また、生活上の困りごとの内容については、「おいしく食事ができなかったことがある」が一番多い。

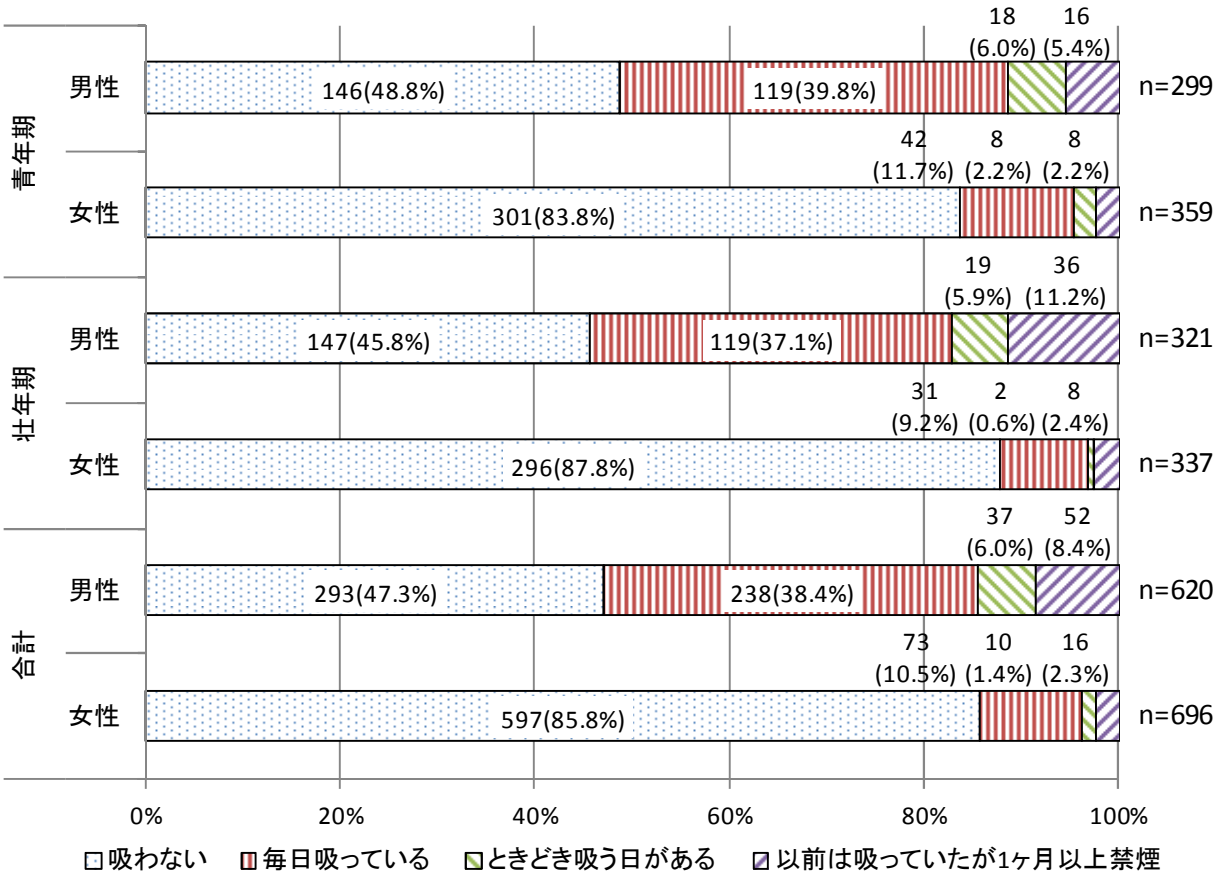
⑬「毎食後、歯みがきをしている人」の割合



「毎食後、歯みがきをしている」は、65.0%である。

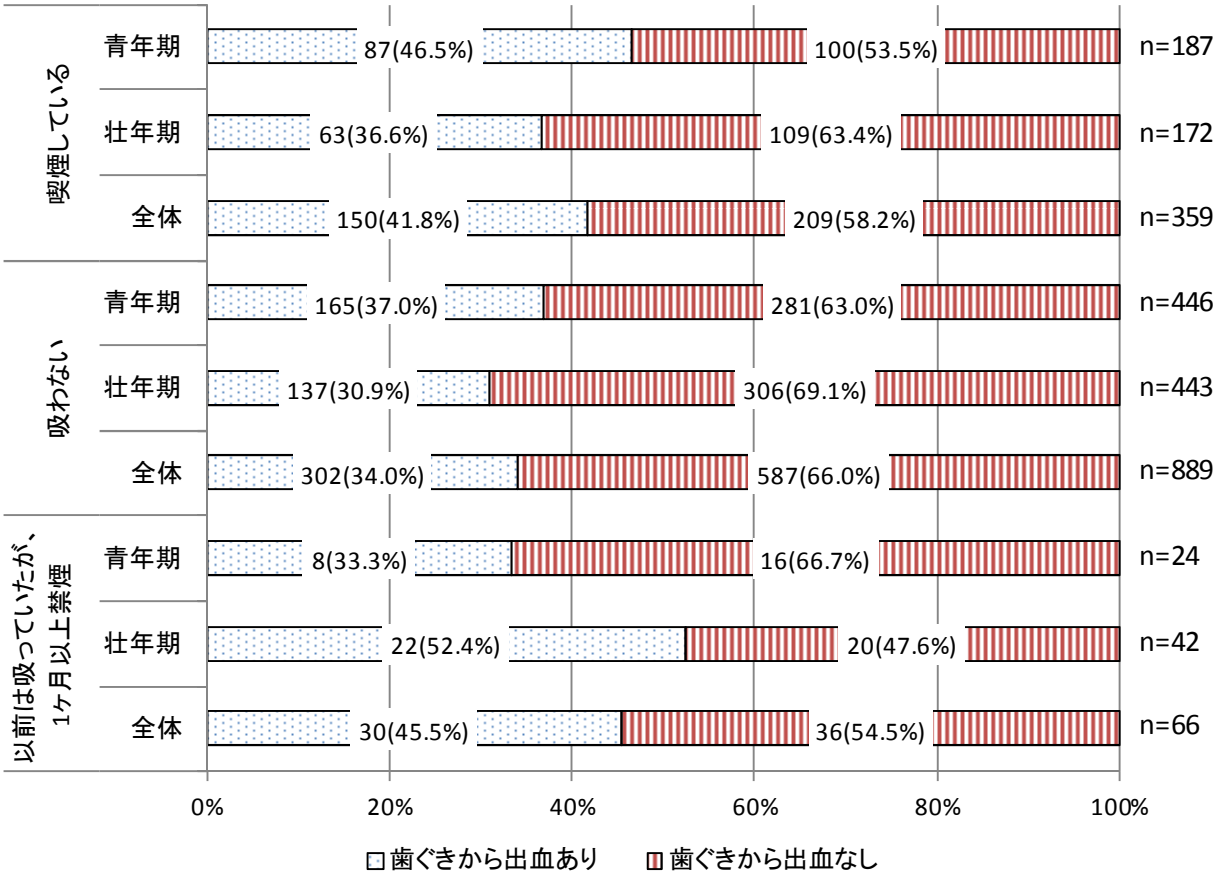
年代別でみると、小学５年生と中学２年生は同じ傾向にあり、他の年代と比べて、毎食後歯みがきをしている人が多い。

⑭「喫煙している人」の割合



「毎日吸う・時々吸う日がある」は、男性 44.4%、女性 11.9%である。
年代別でみると、各年代ともに同じ傾向である。

⑮「喫煙している人」の割合と「歯ぐきから出血している人」の割合のクロス



喫煙している人の「歯ぐきから出血あり」は 41.8%、吸わない人の「歯ぐきから出血あり」は 34.0%であり、吸わない人の方が少ない。

２　第１次長岡市歯科保健計画
評価について

【むし歯をつくらない】

	めざすもの	指標項目	H14年基準値	H18年中間値	H24年目標値	直近値	評価
健康目標	【むし歯をつくらない】	【1人平均むし歯数】 #10					
		●3歳	1.39本	1.00本	1本	0.87本	達成
		●5歳	3.17本	2.56本	3本	1.85本	達成
		●12歳	1.30本	0.88本	1本	0.62本	達成
		●17歳（長岡地域振興局管内）	3.94本	2.51本	3本	1.53本	達成
		●3歳児むし歯罹患率	35.10%	27.40%	20%	21.1%	改善
保健行動・生活習慣	【歯みがき・歯間部清掃】	○幼児の保護者は仕上げみがきをしている					
		■1歳6か月健診受診者で仕上げみがきをしている家庭 #1		84.9%	84.9%↑	90.3%	達成
		■3歳児健診受診者で仕上げみがきをしている家庭 #1		94.5%	94.5%↑	97.2%	達成
		○1日1回しっかり歯みがきをする					
		●毎食後歯みがきをしている(65歳以上)の割合 #2	23.5%	22.2%	↑	64.5%	達成
		●歯間清掃用具を使用している人（青年期以降） #8	24.3%	なし	40%	36.5%	改善
	【歯科医療機関の受診】	○歯科健診後、受診勧奨・勧告を受けたら早期に歯科医療機関を受診する					
		■健診受診者の歯肉炎の勧奨・勧告対象者の割合					
		・小学校対象者割合		12.8%	10.0%以下	10.6%	改善
		・中学校対象者割合		22.7%	20.0%以下	18.5%	達成
		■歯肉炎の勧奨・勧告対象者の受診率					
		・小学校対象者の受診率		50.7%	70.0%以上	50.7%	変化なし
		・中学校対象者の受診率		28.6%	50.0%以上	41.5%	改善
		■歯周疾患検診受診率		11.4%	15.0%以上	10.3%	減少
		●定期的に歯科医療機関を受診する人の割合(全年齢） #8	5.2%	なし	10.0%	25.3%	達成
	【生活習慣】	○おやつの内容と量が適切である					
		■おやつの時間を決めている家庭の割合 #1					
		・1歳6か月児		70.0%	70.0%以上	73.5%	達成
		・3歳児		71.3%	71.3%以上	80.1%	達成
	【フッ素の利用】	●フッ素入り歯磨剤を使用している人（全年齢） #8	63.8%	なし	90%	45.9%	悪化
		○フッ素を利用する児の割合を高める					
		●フッ素塗布をしたことのある子ども割合（3歳） #1	45.9%	73.7%	73.7%以上	83.8%	達成
		■フッ素洗口事業					
		幼稚園実施率 #3		11.8%		21.1%	増加
		保育園実施率 #3		24.1%		23.5%	減少
		小学校実施率 #3		29.5%		38.3%	増加
		中学校実施率 #3		10.7%		11.1%	微増
前提要因	【歯科疾患の原因・予防法について理解している】	○歯・口腔の機能の重要性について認識している					
		●フッ素によるむし歯予防を有益と理解している人(20歳以上） #8	29.9%	なし	60%	43.7%	改善
		●シーラントを知っている人（15～49歳）	16.9%	なし	40%	なし	評価せず
		○歯間部清掃を軸とした口腔清掃の意義					
		●喫煙が歯周組織に及ぼす害を知っている人 #8	29.3%	なし	60%	59.7%	改善
強化要因	【歯科保健指導を受けたことがある人】	●歯みがき指導（全年齢） #8	51.5%	なし	60%	67.5%	達成
		●歯間清掃用具指導（全年齢） #8	28.0%	なし	40%	47.2%	達成
実現要因	【歯科健診・保健指導を受けやすい体制がある】	○歯科指導を受けやすい体制がある					
		■保育所・幼稚園むし歯予防教室の実施率 #3		89.8%	95%以上	93.7%	改善
		■小学校むし歯予防教室・歯肉炎予防教室実施率 #3		60.0%	70%以上	100.0%	達成
		■中学校むし歯予防教室・歯肉炎予防教室実施率 #3		40.7%	50%以上	70.4%	達成
		○フッ素塗布					
		○シーラント処置					
		○保育園・幼稚園・学校・地域・職域と歯科医療機関との連携がとれている					
		○フッ素利用について情報が得られる					

●数値目標あり ○数値目標なし

#1 子ども家庭課 乳幼児健診事業　#2 歯と健康に関するｱﾝｹｰﾄ　#3 県 市町村歯科保健事業実施報告

#8 健康課 ながおかヘルシープラン21最終評価結果報告（H24）　#10 小児の歯科疾患の現状と歯科保健対策 平成23年度版

数値評価	
3歳児むし歯罹患率は目標に及ばなかったが、大きく改善がなされている。 一人平均むし歯本数は全て、目標値を達成している。	
仕上げみがきの実施は目標値に達している。 毎食後の歯みがきは著しく改善している。 歯間清掃具の使用は目標値には達していないが基準値と比較して12ポイント改善している。	**健康目標に関与する保健行動・生活習慣の評価** 「保護者による仕上げみがき」や「毎食後の歯みがき」「歯間清掃具の利用」はそれぞれ達成・改善し、むし歯をつくらないことに寄与している。 「定期的に歯科医院を受診する（全年齢）」は大幅に増加した。 フッ素塗布後からこどものかかりつけ歯科医を持ち、定期的に受診するなど受診行動の変化がむし歯をつくらないに結びついている。 小学生の「歯科検診受診後に受診勧奨や受診勧告の対象者」は減少しているが、「歯科検診後の受診率」が減少している。 こどもをむし歯にしないように熱心に取り組む親と、こどものむし歯に無関心な親と二極化している実態がある。その二極化は小学校入学までには現れている。入学時すでに7～8本のむし歯を一人で持ち、一人平均むし歯本数を上げている現状がある。 「おやつの時間を決めている」が増加していることも、むし歯をつくらないことに寄与している。 フッ素塗布をしたことがある子どもの割合は増加している。子ども家庭課で発行するフッ素塗布の無料券の利用は約60％である。フッ素塗布に取り掛かるきっかけとなっており、また定期受診のきっかけとなっている。
歯肉炎の勧奨・勧告対象者割合は、小学校では目標値に達していないが近づいている。中学校では、目標値を達成した。 また、受診率については、小学校では大きな改善はみられなかったが、中学校では改善がみられ、目標値に近づいている。 定期的に歯科医療機関を受診する人の割合は、目標値を達成した。	
おやつの時間を決めている家庭の割合は、1歳6か月児、3歳児で目標値を達成している。	
フッ素入り歯みがき剤を使用している人の割合は、中間評価と比べて悪化。 フッ素塗布をしたことがある子どもの割合は、目標値を達成した。 フッ素洗口事業では、中間評価時と比べて幼稚園・小学校・中学校で実施率が増加している。	
フッ素によるむし歯予防が有益と理解している人は目標に達しなかったが10ポイント以上の改善が見られた。 シーラントはアンケートがとれず、評価せず。 喫煙の害の理解は目標値に達していないが、基準値の倍以上の改善が見られた。	**保健行動・生活習慣を強化する要因の評価** フッ素によるむし歯予防を有益と考えている人は43．7％と増加した。フッ素塗布事業の利用者や自発的にフッ素塗布する人が増加することに寄与する。 「歯科検診・保健指導を受けやすい体制にある」は保健指導については保育園・幼稚園・小学校・中学校などの教育現場等で保健指導が取り入れられている。高校生については歯科の保健指導が市としても取り組めていない。 妊婦の歯科検診事業が開始され、歯科検診を受けやすい取り組みが行なわれている。妊娠時には健康に関する意識が高まるため、フッ素の情報提供などを行なうとさらに保健行動を促進すると考える。
歯みがき・歯間清掃具ともに目標値に達した。	
保育所・幼稚園むし歯予防教室の実施率が目標値に達していないが中間評価時と比べ3．9ポイント改善している。また、小中学校においては目標値を達成している。	

【歯周病を予防する】

	めざすもの	指標項目	H14年基準値	H18年中間値	H24年目標値	直近値	評価
健康目標	【歯周病を予防する】	【歯ぐきから出血している人の割合】 #7、#8					
		●30歳（25～34歳）	15.0%	なし	10.0%	42.0%	悪化
		●40歳（35～44歳）	19.6%	なし	15.0%	39.1%	悪化
		●50歳（45～54歳）	21.2%	なし	15.0%	33.8%	悪化
保健行動・生活習慣	【歯みがき・歯間部清掃】	○1日1回しっかり歯みがきをする					
		毎食後歯みがきをする(65歳以上)	23.5%	22.20%	↑	64.5%	達成
		●歯間部清掃用具を使用している人	24.3%	なし	40%以上	36.5%	改善
	【歯科医療機関の受診】	○歯科健診後、受診勧奨・勧告を受けたら早期に歯科医療機関を受診する					
		■健診受診者の歯肉炎の勧奨・勧告対象者の割合					
		・小学校対象者割合		12.8%	10.0%以下	10.6%	改善
		・中学校対象者割合		22.7%	20.0%以下	18.5%	達成
		歯肉炎の勧奨・勧告対象者の受診率					
		・小学校対象者の受診率		50.7%	70.0%以上	50.7%	変化なし
		・中学校対象者の受診率		28.6%	50.0%以上	41.5%	改善
		歯の疾患　医療費の状況(全体) #4、#9					
		医療費（入院＋入院外）		173,354,530円	↓	89,311,720円	減少
		一人医療費（合計）		1,848円	↓	1,313円	減少
		医療費の構成比（合計）		7.3%	↓	6.6%	減少
		受診率（合計）		13.0%	↓	9.9%	減少
		歯周疾患検診受診率	なし	11.4%	15.0%	10.3%	減少
	【生活習慣】	○喫煙しない					
		■妊婦の喫煙率 #5	なし	2.5%	0%	3.4%	悪化
		■未成年者の喫煙率 #7　#8					
		小学5年生		0.9%	0%		評価せず
		中学2年生		0.9%	0%		評価せず
		高校2年生	なし	3.2%	0%	4.4%	悪化
		■喫煙している人の割合 #7　#8					
		青年期男性		55.1%	55.1%以下	45.8%	達成
		青年期女性		18.2%	18.2%以下	13.9%	達成
		壮年期男性		45.6%	45.6%以下	43.0%	達成
		壮年期女性		7.2%	7.2%以下	9.8%	悪化
前提要因	【歯科疾患の原因・予防法について理解している】	○歯・口腔の機能の重要性について認識している					
		●フッ素によるむし歯予防を有益と理解している人(20歳以上)　#8	29.9%	なし	60%	43.7%	改善
		●シーラントを知っている人（15～49歳）　#8	16.9%	なし	40%		評価せず
		○歯間部清掃を軸とした口腔清掃の意義					
		●喫煙が歯周組織に及ぼす害を知っている人　#8	29.3%	なし	60%	59.7%	改善
強化要因	【歯科保健指導を受けたことがある人】	●歯みがき指導（全年齢）　#8	51.5%	なし	60%	67.5%	達成
		●歯間清掃用具指導（全年齢）　#8	28.0%	なし	40%	47.2%	達成
		○歯科保健指導を体験し爽快感、満足感等を得る					
実現要因	【歯科医師、歯科衛生士による予防処置を受けられる】	○歯科健診・保健指導を受けやすい体制がある					
		歯科健康相談　実施回数（青年期～壮年期）		11回			
		健康教育　実施回数（青年期～壮年期）		1回			
		○シーラント処置					
		○歯周病管理					
		○保育園・幼稚園・学校・地域・職域と歯科医療機関との連携がとれている					

○数値目標あり　●数値目標なし

#4　国保医療課　疾病別医療費の状況(H18.5月)

#5　子ども家庭課　妊娠届出書集計結果

#6　健康課　ながおかヘルシープラン21中間評価事業報告（H18）

#7　健康課　ながおかヘルシープラン21基礎調査結果報告(H

#8　健康課　ながおかヘルシープラン21最終調査結果報告（H24）

#9　国保年金課　医療費分析より（H23.5月）

数値評価	
歯ぐきから出血している人の割合は悪化している。歯みがきを良くやる人が増えたことや、歯の健康に関心を持つ人が増えていること、出血を意識する人が増えていることも要因としてある。	
毎食後の歯みがきをする人の割合が3倍近く増加している。歯間清掃具使用者は目標に達成していないが改善傾向にある。	**健康目標に関与する保健行動・生活習慣の評価**
歯肉炎の勧奨・勧告対象者割合は、小学校では目標値に達していないが近づいている。中学校では、目標値を達成した。 また、受診率については、小学校では大きな改善はみられなかったが、中学校では改善がみられ、目標値に近づいている。 歯周疾患検診受診率については、基準値と比べてのびていない。 医療費の構成比としては、中間評価時より減少している。	健康指標の「歯ぐきから出血している人の割合」は、悪化している。 この一因として口腔の衛生管理への意識が高まったことにより、歯ぐきを強く磨いて出血につながる人が増えたことが考えられる。 また、長岡市の成人歯周疾患検診の結果によると、検診受診者のうち、歯周治療が必要だった人は、中間評価時（H18）から現在に至るまで5割程度で推移している。 一方で、小学生・中学生の「歯肉炎の勧奨・勧告対象者」の割合は、改善している。養護教諭や歯科衛生士等による指導で口腔衛生の知識が普及し、意識が高まったことが影響していると考えられる。 また、歯周病と関連の深い喫煙率は、青年期及び壮年期男性で改善傾向であるが、妊婦、高校生、壮年期女性で悪化している。全体として喫煙率は減少しているが、健康指標の改善にはつながらなかった。たばこの害や禁煙に関する一層の啓発が必要と思われる。
喫煙については妊婦・高校生ともに悪化している。 壮年期女性が悪化している。 青年期男女、壮年期男性は減少しているが、国が次期健康づくり計画に盛り込む予定の喫煙率１２％以下にはほど遠い。	
フッ素によるむし歯予防が有益と理解している人は目標に達しなかったが１０ポイント以上の改善が見られた。 シーラントはアンケートがとれず、評価せず。 喫煙の害の理解は目標値に達していないが、基準値の倍以上の改善が見られた	**保健行動・生活習慣を強化する要因の評価**
歯みがき・歯間清掃具ともに目標値に達した。	「歯みがき・歯間清掃具指導を受けたことがある人」の割合は、目標値に達している。幼少期から、健診等において、歯みがき指導や歯間部清掃用具指導を受ける場が整備されてきており、歯みがきや歯間部清掃の保健行動の改善につながっていると思われる。また、毎年対象者に健診の受診勧奨のハガキを郵送している歯科医もあり、きめ細かい対応が、口腔の衛生管理につながっていると思われる。 「喫煙が歯周組織に及ぼす害を知っている人」は、約2倍に増加しており、ここ数年における、社会的な禁煙の取り組みにより、知識が普及し、喫煙率の減少につながったと思われる。

【歯の喪失を防ぐ】

	めざすもの	指標項目	H14年基準値	H18年中間値	H24年目標値	直近値	評価
健康指標	【歯の喪失を防ぐ】	【現在歯】#6、#7、#8　20本以上					
		●60歳（55～64歳）	61.6%	なし	75.0%		評価せず
		●70歳（65～74歳）	61.0%	なし	70.0%	62.2%	変化なし
		●80歳（75～84歳）	32.1%	なし	40.0%	35.8%	変化なし
		●口腔疾患に起因する生活上の困りごとがない人（10歳以上）	66.5%	81.9%	80.0%	78.9%	改善
保健行動・生活習慣	【歯みがき・歯間部清掃】	●毎食後歯みがきをする（小5以上）　#8				65.0%	
		65歳以上	23.50%	22.20%	↑	64.5%	達成
		●歯間部清掃用具を使用している人（全年齢）　#8	24.30%		40%以上	36.5%	改善
	【歯科医療機関の受診】	○歯科健診後、受診勧奨・勧告を受けたら早期に歯科医療機関を受診する					
		■健診受診者の歯肉炎の勧奨・勧告対象者の割合					
		・小学校対象者割合		12.8%	10.0%以下	10.6%	改善
		・中学校対象者割合		22.7%	20.0%以下	18.5%	達成
		歯肉炎の勧奨・勧告対象者の受診率					
		・小学校対象者の受診率		50.7%	70.0%以上	50.7%	変化なし
		・中学校対象者の受診率		28.6%	50.0%以上	41.5%	改善
		■歯の疾患　医療費の状況(全体) #4、#9					
		医療費（入院＋入院外）		173,354,530円	↓	89,311,720円	減少
		一人医療費（合計）		1,848円	↓	1,313円	減少
		医療費の構成比（合計）		7.3%	↓	6.6%	減少
		受診率（合計）		13.0%	↓	9.9%	減少
		●定期的に歯科医療機関を受診する人の割合	5.20%	なし	10%以上	25.3%	達成
	【生活習慣】	○歯・口腔の健康に配慮した食生活を行う					
		■1日2食以上、主食・主菜・副菜がそろう割合　#6　#7					
		小学5年生	70.6%	77.7%	77.7%以上	78.9%	達成
		中学2年生	75.9%	81.3%	81.3%以上	80.5%	微減
		高校2年生	73.3%	67.5%	67.5%以上	68.8%	達成
		高齢期	59.5%	66.1%	66.6%以上	78.8%	達成
前提要因	【歯科疾患の原因・予防法について理解している】	○歯・口腔の機能の重要性について認識している					
		●フッ素によるむし歯予防を有益と理解している人(20歳以上)　#8	29.9%	なし	60.0%	43.7%	改善
		●シーラントを知っている人（15～49歳）	16.9%	なし	40.0%		評価せず
		○歯間部清掃を軸とした口腔清掃の意義					
		●喫煙が歯周組織に及ぼす害を知っている人　#8	29.3%	なし	60.0%	59.7%	改善
強化要因	【寝たきり者・障害児(者)への歯科保健サービスと歯科医療】	○寝たきり者・障害(児)者等への歯科保健サービスと歯科医療を身近に感じたり体験したりする					
実現要因	【歯科医師、歯科衛生士による予防処置を受けられる】	○歯科健診・保健指導を受けやすい体制がある					
		○歯周病管理					
		○保育園・幼稚園・学校・地域・職域と歯科医療機関との連携がとられている					

○数値目標あり　●数値目標なし

#4　国保医療課　疾病別医療費の状況(H18.5月)　　#6　ながおかヘルシープラン21中間評価事業報告（H18）

#7　ながおかヘルシープラン21基礎調査結果報告(H15)　　#8　ながおかヘルシープラン21最終評価事業報告（H24）

#9　国保年金課　医療費分析より（H23.5月）

数値評価	
歯の喪失を防ぐ目標値は達成できなかった。「口腔疾患に起因する生活上の困りごとがない人」は増加している。	
65歳以上で毎食後の歯みがきをしている割合は目標を達成している。歯間清掃具使用の目標は達成できなかったが改善している。	**健康目標に関与する保健行動・生活習慣の評価**
歯肉炎の勧奨・勧告対象者割合は、小学校では目標値に達していないが近づいている。中学校では、目標値を達成した。 また、受診率については、小学校では大きな改善はみられなかったが、中学校では改善がみられ、目標値に近づいている。 定期的に歯科医療機関を受診する人の割合は、目標値を達成した。 医療費の構成比としては、中間評価時より減少している。	定期的に歯科医療機関を受診する人が増えた、歯みがきをする人が増えた、さらに食生活に改善がみられたなど、保健行動・生活習慣に大きな改善がみられた。改善された部分については継続・維持が必要。 「毎食後歯みがきをする人」「歯間部清掃用具を使用している人（全年齢）」は改善されたが、健康指標の改善にはつながらなかった。
1日2食以上主食・主菜・副菜がそろう割合は、小5・高2・高齢期で目標値を達成した。中2では目標には達しなかったが、基準値と比べて大きく改善した。	
フッ素、喫煙の理解ともに改善傾向にあるが目標値に達成していない。	**保健行動・生活習慣を強化する要因の評価**
	改善された背景には、むし歯予防や歯周病予防として歯間ブラシやデンタルフロス等が広く知られるようになり、店頭で買いやすくなったことや、歯みがき粉の9割にフッ素が入っていることなどの環境の変化があると思われる。また、予防に対しての意識が高まり、歯科医院等で指導を受けやすい体制が確立されてきている。